

# 第三国集团研修評価調査団報告書

—マレーシア, ENG/EFP 技術—

昭和63年8月

国際協力事業団  
研修事業部

研 管
J R
88-46

LIBRARY

正 誤 表

第三国集団研修評価調査団報告書

— マレーシア、ENG/EFP技術 —

	頁	行	誤	正
①	1	本文11行目	派遣されたものである。評価及び協議の結果は4月7日署名された。ミニッツ……	派遣されたものである。評価及び協議の結果は4月7日に署名されたミニッツ……
②	1	表中日程欄 下から 4行目	8:50 表敬及びR T Mから見た本 <u>第三回</u> <u>研修等</u> について協議	8:50 表敬及びR T Mから見た本 <u>第三国</u> <u>研修等</u> について協議

# 第三国集団研修評価調査団報告書

—マレーシア, ENG/EFP 技術—

JICA LIBRARY



1071514C2J

18588

昭和63年8月

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団

18538

## 序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ同一の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国から研修員を受入れて、より現地事情に適合した適性技術、知識の移転を図り、これにより開発途上国間技術協力（TCDC）の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう支援協力することを目的としている。我が国は昭和49年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々、第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和62年度には16ヶ国で36コースの集団研修を実施した。

マレーシアにおける第三国研修は、アジア太平洋放送開発研究所（AIBD）における「ENG／EFP技術」コースと、金属工業技術センター（MITEC）における「金属加工」コースを昭和58年度から実施しており、昭和62年度に両者とも5回目を迎えた。更に、アセアン家禽疾病研究訓練センターにおいて「家禽疾病」コースを開始している。

本報告書はAIBDにおいて実施された「ENG／EFP技術」コースの5年間にわたる研修の成果を総合的に評価するため、昭和63年4月3日から4月9日までマレーシアに派遣された評価調査団の調査結果をとりまとめたものである。

本報告書が関係者各位のさらに深い御理解のもとに、第三国研修のより良い今後の展開に資することができれば幸いである。

最後に本調査団の派遣に際し御協力を賜った外務省、郵政省、日本放送協会、在マレーシア日本大使館及び派遣専門家の各位に深甚な謝意を表する次第である。

昭和63年8月

研修事業部長  
岡 部 和 夫





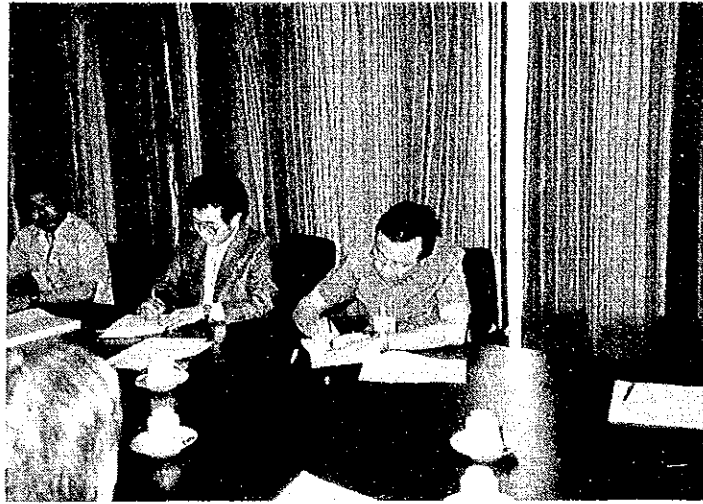
A I B D 前 景



宿 泊 室 ( I P T A R )







ミニッツ署名



A B U 表敬



R T M 表敬



# 目 次

序 文

写真

1. 研修評価調査団の派遣	1
1. 1 派遣の経緯と目的	1
1. 2 調査団の構成	1
1. 3 調査日程	1
1. 4 面談者	2
2. 研修概要と実績	3
2. 1 経緯	3
(1) A I B Dの設立とその経緯	3
(2) A I B Dの概要	4
(3) E N G研修の必要性	5
(4) 個別専門家派遣による技術協力	7
(5) 第三国研修	7
2. 2 研修計画	9
(1) 研修計画の基本方針	9
(2) 研修計画及び実績	10
(3) R/Dにより決められたカリキュラムの主要項目	10
(4) 各年度におけるカリキュラム及び実施計画	10
2. 3 実施体制	29
(1) 実施機関組織図	29
(2) 関連組織の支援体制等	29
(3) 研修指導	32
(4) 研修運営	40
2. 4 研修員受入実績	41
2. 5 日本の協力実績	42
(1) 第三国研修に要した経費	42
(2) 派遣専門家及び携行機材	42
3. 評価活動の実績	44

(1) 専門家の報告書及び研修員へのアンケート調査	44
(2) 第三国研修管理ミッション報告書	44
4. 評価	45
4. 1 実施目的	45
4. 2 評価方法	45
4. 3 研修効果	45
4. 4 研修計画	46
4. 5 研修実施機関	47
(1) 研修指導能力	47
(2) 研修運営管理能力	49
4. 6 日本の協力	49
(1) 経費	50
(2) 専門家	50
(3) 機材	50
5. 総合評価	51
5. 1 研修計画	51
5. 2 研修実施	51
5. 3 日本の協力	52
6. 提言	53
6. 1 計画策定	53
6. 2 実施・運営	53
6. 3 日本の協力	53
添付資料	55

## 1. 研修評価調査団の派遣

### 1. 1 派遣の経緯と目的

アジア太平洋地域の開発途上国においては、TV番組の製作に小型TVカメラ、VTR機器が広く普及しているが、これ等機器を十分に使いこなせる人材は決して多いとはいえない状況にある。このような背景のもとに、放送分野における豊富な研修実績を有する国際機関の一つであるアジア太平洋放送開発研究所 (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development - 略称 AIBD。マレーシア国クアラルンプール市に設置) に於いて、アジア・太平洋地域の放送技術者を対象に ENG (Electronic News Gathering) 技術と EFP (Electronic Field Production) 技術の修得を目的とした第三国研修を実施することとなり、同研修に係る R/D が昭和58年8月署名された。昭和58年度以降62年度までに、毎年1回、計5回の研修コースが実施され、13ヶ国から99名が参加した。本調査団は本研修の協力実績を評価するとともに、必要に応じ今後の対処方針につき AIBD と協議するために昭和63年4月3日から8日までマレーシアに派遣されたものである。評価及び協議の結果は4月7日署名されたミニッツ (添付資料1) のとおりである。

### 1. 2 調査団の構成

団 長 星 達 雄 (国際協力事業団研修事業部研修第1課長)  
 計画評価 目 時 政 彦 (郵政省通信政策局国際協力課第三国際協力係長)  
 研修評価 大 塚 裕 昭 (日本放送協会技術本部技術管理部チーフエンジニア)  
 運営評価 久 野 貴一郎 (国際協力事業団研修事業部管理課長代理)

### 1. 3 調査日程

日 時	訪 問 先	日 程
4/3 (日)		11:15 成田発→21:35 クアラルンプール着
4/4 (月)	JICAマレーシア事務所	9:00 本コース評価関連の事務所コメント聴取及び本件対処方針説明
	日本大使館	9:30 本コース評価関連の大使館コメント聴取及び本件対処方針説明
	AIBD	10:30 表敬及び評価に関する協議
4/5 (火)	AIBD	9:00 評価に関する協議及び本件継続に関するプロポーザルについての協議
4/6 (水)	ABU	8:30 表敬
	AIBD	9:00 評価及び本件継続に係るプロポーザルについて協議
4/7 (木)	RTM	8:50 表敬及びRTMから見た本第三国研修等について協議
	AIBD	13:00 ミニッツ署名 (印)
4/8 (金)		22:45 クアラルンプール発 久野団員のみ14:50クアラルンプール発

#### 1. 4 面 談 者

##### A I B D (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development)

Dato Abudullah Mohamad	Director
Mr. Brajesh Bhatia	Deputy Director / Regional Training Coordinator
Mr John Nettleton	General Programme Coordinator
Ms. Margaret Dass	Executive Officer (Finance)
又 吉 元 亮	J I C A 長期専門家
白 石 克 己	J I C A 長期専門家

##### A B U (Asia-Pacific Broadcasting Union)

Mr. Arthur Wyndham	Director Programme Services
Mr. A. M. M. A' abad	Director

##### R T M (Radio Television Malaysia)

Mr. H. S. Gendeh	Deputy Director General of Broadcasting (Engineering)
Mr. M. Jeganathan	Deputy Director of Engineering (Radio)
Mr. Alimusa Sulaiman	Deputy Director of Engineering (TV)
Mr. Chua Chin Hoon	Director of Engineering (Research)
Mr. Yap San Chik	Controller of Engineering (OB TV)
Mr. Hj. Mohd. Noordin	Director of Engineering (General Services)

##### 在マレイシア日本国大使館

三 村 稜	一等書記官
-------	-------

##### J I C A マレイシア事務所

松 崎 孝 雄	所長
今 井 健 一	所員

## 2. 研修概要と実績

### 2. 1 経 緯

#### (1) A I B Dの設立とその経緯

A I B D (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development : アジア太平洋放送開発研究所) は、1958年5月東京で開催された第2回アジア放送会議でアジアでの放送分野における専門家の養成の緊急性が喚起され、翌々年の1960年5月の第3回同会議(東京で開催)において、アジア共通の研修所設立案を採択し、ユネスコの援助を要請するよう決議したのが、設立の発端である。

1966年、ユネスコ主催の『アジア地域の教育および開発のための放送に関する会議』に於いて、地域に於ける放送の拡充のため、放送局スタッフの訓練の必要性を討議し、地域内の研修施設の必要性を勧告した。これに基づき、1967年ユネスコ、A B U (Asia-Pacific Broadcasting Union アジア太平洋放送連合) 共同で調査を実施し、その勧告書の中で、20,000名の研修ニーズがあることが報告された。

1969年9月、ユネスコ主催のアジア地域研修専門家会議がマレーシアで開催され、(日本他8ヶ国、4国際機関が参加) この中で、地域放送研修組織の設立勧告がなされ、マレーシア政府は、上記要請を受入れ設立準備を開始した。この結果、1970年に至り、マレーシアに暫定的な国立の放送研修センターが設立された。この研修センターがA I B Dのベースになっている。

1971年、上記研修所が完成発足し、ユネスコからの専門家4名(テレビ制作、テレビ技術、テレビ現業技術、及びテレビフィルム) が派遣され業務を開始した。併せて上記専門家のカウンターパート研修を日本が担当した。更にU N D Pの援助により、地域レベルの研修計画とA B T I (Asian Broadcasting Training Institute) の設立準備に着手した。

1975年には、この組織をアジア放送開発研究所に改称した。この間、U N D P、ユネスコ、U N F P A、コロンボ計画、日本・万国博覧会記念協会(J W E C A)、日本放送文化基金(H B F) などからの資金援助を受けている。

1967年、U N E S C O調査団は、アジア地域の15カ国を調査し、各国放送局のなかで、20,000名は研修または再訓練を必要としており、また、その研修の場所としてマレーシアが適当であると報告した。アジアにおける人的要求に応じて、1968年、ユネスコ研修専門家会議は、地域放送研修センターの設立を提案し、マレーシアをホスト国とした。それ以来、通信、インフラ、あるいはシステムや組織的研修の要望の増加とともに研修内容の充実を図りつつ、発展してきた。

この様にして、1977年8月、A I B Dの参加国の設立趣旨書へのサインに伴い、正式に

AIBDが設立された。1972年以来、ユネスコ、UNDP、ABU、JICA、マレーシア政府及び、いくつかの民間または公的な資金援助機関からの援助により運用されてきたものであったが、1987年までにAIBDは、域内38ヶ国から、また、域外23ヶ国からの約9,500名の参加者に対して、約530分野の研修を行っている。1987年度の研修実績及び1988年度の研修実施スケジュールを添付資料2に示す。

現在のAIBDの構成国は、アフガニスタン、バングラデシュ、中国、フィジー、インド、インドネシア、イラン、韓国、ラオス、マレーシア、モルジブ、ネパール、パプア・ニューギニア、フィリピン、サモア、シンガポール、スリランカ、タイ及びベトナムである。（日本は未加盟）。

## (2) AIBDの概要

### 1) 研究所の目的

AIBDの目的は次の通りである。

- ① メンバー国の放送システムの専門分野に於ける能力向上
- ② メンバー国の開発と教育の分野に於ける放送機関の利用促進
- ③ 放送に関する、より効果的かつ、効率的な運用を行う為に必要な、資機材、技術及び方法の開発
- ④ 放送開発、研修及びその研究分野における、共同研究組織の設立

### 2) 研究所の機能

- ① 研修コース、セミナー及び参加国向けの放送局要員に対する研修機会の用意
- ② 放送研修に関わる研修手法、教材、カリキュラムなどの用意
- ③ 参加国の社会経済開発に関わる放送問題についての研究、調査の実施
- ④ 開発や教育目的に沿った方向で実験的なモデル番組の制作
- ⑤ 放送に関する最新情報及び関連情報の分析、収集、配布
- ⑥ 要請に応じてのメンバー国への助言、コンサルタント業務

### 3) 研修分野

研修は、テレビ・ラジオについて、次の分野で可能

- ① 放送運営
- ② 番組製作
- ③ 技術・運用
- ④ ニュースおよび情報番組
- ⑤ フィルム
- ⑥ 視聴者研究および番組評価
- ⑦ 研修方法



⑧ 社会開発への放送の利用

⑨ 研修教材開発および人材育成開発

#### 4) 財源

メンバー国の拠出金（A I B D加盟国および拠出金状況は2. 3(3)参照）及び国際援助機関等からの資金援助による。

#### 5) 専門家

講師・専門家およびリソース・パーソンは、A I B D独自のスタッフの他、援助組織、援助機関、その他、技術協力援助機構などからの長・短期派遣専門家によって、賄われている。現在、相当数の専門スタッフが計画作成および研修実施のために常駐している。

添付資料3にA I B Dのスタッフリストを示す。

#### 6) 設備

研究所は小規模な設備を持っているが、マレーシア国立放送研修所（I P T A R：スタッフ200名）と同居している。

### (3) E N G研修の必要性

第三国研修の目的となった、放送番組の取材・制作の重要部門であるE N G / E F Pは、十数年前に、アメリカで開発された手法で、従来のフィルムに代わり、V T Rを使用し、収録後直ちに再生できる即時性、鮮明な映像、経済性やF P U（Field Pick Up）などによる即時伝送が可能などの大きなメリットがあり、今や、アジア太平洋地域諸国にも広く普及している。

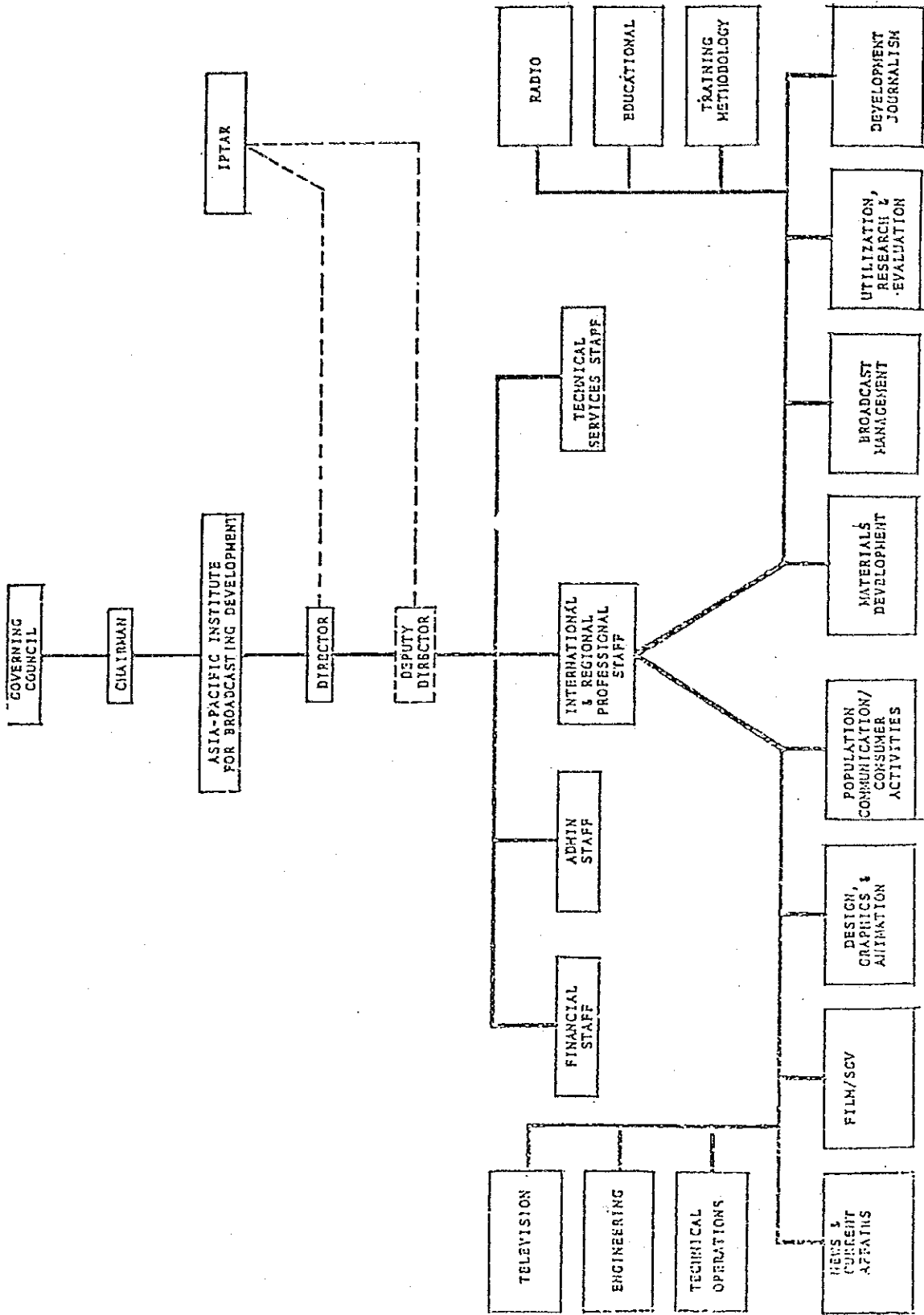
E N Gは、従来のテレビ番組をスタジオ内で制作するという概念を変革し、戸外におけるニュース取材の容易さと迅速性のため急速に世界中に普及をみた。特に、日本においては、放送技術の発展とエレクトロニクス産業の隆盛があいまって、世界中にこれ等の機器を供給し、技術的に先導役を果たしている立場にある。

これ等小形カメラと小形V T R及び関連機器は、テレビ放送に画期的な変革をもたらし、従来の放送番組の取材及び制作手法、放送局スタッフの役割分担にも大きな影響を与えており、これにともない、本システムに対する、知識習熟への関心と機器等の保守管理に対するニーズがアジア・太平洋地域の放送機関の中で急速に高まっている。

特にこれ等の高度な技術分野においては、機器の小形軽量化のために、高度に集積化が進み、回路機能がとみに複雑となってきたため、理解するためには、高度の知識を必要とする。

この様な問題を解決するため、各国、各放送局とも検討を続けているが、数多い放送局スタッフの各々に高度の技術を直接教育することは、効率的ではないので、A I B Dにおいて、域内各局の管理的指導者、専門技術者に研修を実施し、これ等の研修経験者が、帰国後、各局で指導者になって再研修をすることにより知識の拡散を図ることが計画された。

A I B D 組 織 圖



#### (4) 個別専門家派遣による技術協力

JICAはAIBDに対する技術協力のために、長期専門家として、矢口栄一氏（1981年4月～1985年4月）と、又吉元亮氏（1985年6月～1988年6月）を派遣した。両氏はまた、AIBD内におけるリソース・パーソンとしての役割及び日本側との窓口の役割をも担ってきた。

なお、ENG第三国研修が開始された1984年2月以前にも、延べ18名の短期専門家が派遣され、番組・技術分野における研修を実施した。

派遣専門家リストを2.5(2)に示す。

#### (5) 第三国研修

1983年4月に派遣された第三国研修事前協議チームにより、我が国の行う第三国研修がAIBDの設立目的、及び業務形態に全く合致するものであることが確認され、『ENG Operation & Maintenance』分野における第三国研修実施のR/Dが調印され、併せて具体的研修日程、内容、経費見積りなど諸事項の協議がなされた。

この結果、本第三国研修は1984年を第1回として、AIBDにおいてアジア太平洋地域の放送機関を対象にして、実施されて以来毎年実施され、1987年度も含め実施回数は5回を数えるに至っている。また、1984年5月には、第三国研修管理ミッションが派遣されている。

R/Dにおいて確認された研修内容の主要部分は次の通りである。（添付資料4、R/D本文参照）

- 1) 日本政府及びAIBDは、ENG分野に関する第三国研修の実施について相互に協力する。
- 2) 研修は日本政府の技術協力計画による支援を得て、年間1回（日本の会計年度基準）、日本側及びAIBD側で合意された研修科目についてAIBDが実施する。
- 3) 1983会計年度については、次の項目について実施する。

##### ① コース名

ENGの運用と保守研修コース (Regional Training Course in Electronic News Gathering Operation and Maintenance)

##### ② 目的

新しい技術、知識を修得する本コースは、アジア太平洋地域におけるENG技術分野の技術者、技術系スタッフに、専門分野の新しい知識及び技術を修得する機会を与え、もって同地域のENG技術の向上に資することを目的とする。

##### ③ 期間

初年度である1984年は、2月7日から3月17日までとする。

##### ④ カリキュラム

暫定的なカリキュラムをAnnex Iに示す。

⑤ 参加国

次の諸国を参加対象国とする。

バングラデシュ、ブルネイ、ビルマ、中国、インド、インドネシア、イラン、韓国、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカおよびタイ

⑥ 参加者数

各国からの参加者数は、上記対象国から13名、マレーシアから3名計16名とする。

⑦ 研修員候補者の資格要件

- ア. テレビ番組制作および機器の保守分野における技術者または技術系要員とする。
- イ. ENGの経験が3年以上あることが望ましい。
- ウ. ENGの保守・運用部門の長、または将来そういう立場に立つ予定の者が望ましい。
- エ. 年齢は、30～45才が望ましい。
- オ. 英語の読み書き及び会話の能力が十分にあること。
- カ. 健康であること。

⑧ 申請手順

- ア. 研修参加を希望する政府は、参加申請書（5部）を、1983年12月7日までに外交ルートを通じてAIBDに提出すること。
- イ. AIBDは1984年1月7日までに研修員候補者の受入可否を申請国政府へ通知する。

⑨ 講師及び指導者

- ア. AIBDは、出来るかぎり講師あるいは指導者として自己のスタッフを割当てる。
- イ. AIBDの要請に基づき、日本政府はAIBDのスタッフの指導及び講義を行うために専門家派遣計画により、3名の短期専門家を派遣する。
- ウ. AIBDは、上記専門家派遣に関し、日本政府あて要請書を提出する。

⑩ AIBDは、および日本政府の役割分担

- ア. AIBD側
  - a. カリキュラムの作成
  - b. G. I. の作成及び印刷
  - c. 割当国へのG. I. の送付
  - d. 在マレーシア日本大使館あてに専門家に関する要請書の提出
  - e. 要請書の受理
  - f. 研修員の選考結果を要請国および在マレーシア日本大使館あて通知
  - g. AIBDの講師及び指導者の手配
  - h. 研修員用の研修設備及び宿舍等の手配
  - i. 研修員の空港への送迎

- j. 研修員用の海外旅行及び国内研修旅行の手配
- k. 日本政府が支出する経費以外の研修実施に係わる予算措置
- l. 在マレーシア日本大使館あての研修コース報告書の提出
- m. 研修に関する諸事項の調整

イ. 日本政府側

次の経費を負担する。

- a. エコノミークラス国際航空運賃、宿泊費、生活費、医療保険掛金（マレーシア人を除く）。
- b. コース実施のための会議、補助教具、物品購入、印刷、研修旅行、事務員備上のための諸経費。

⑪ 経理処理

日本政府が負担する研修のための経理処理は、次の手続きによりなされる。

- ア. A I B Dは、コース開始の60日前までに送金が行われる様に、日本政府により負担される経費見積書をマレーシアのJ I C Aクアラルンプール事務所あて提出する。
- イ. J I C Aクアラルンプール事務所は、見積書の受領後50日以前に、提出された見積書を査定し、決定額をA I B Dあて支払う。
- ウ. 支払い確認のため、A I B Dは、J I C A事務所に受領書を提出する。
- エ. A I B Dは、研修コース終了後、30日以内に支出明細書をJ I C A事務所あて提出する。
- オ. 上記経費について残額が生じた場合には、A I B Dは、後日J I C Aの指示に従いその残額を返還する。
- カ. A I B Dは、経費支出にかかる領収書、その他証憑書類を全て保存し、J I C Aの求めがあった場合は提示する。

⑫ 実施スケジュール

研修コースの暫定的なスケジュールはAnnex IIの通りである。

## 2.2 研修計画

### (1) 研修計画の基本方針

研修計画の策定に当っては、E N Gの出現によって従来からの制作手法なり、スタッフ自身の役割分担に変化が生じ、特に放送と技術との緊密な連携作業が求められている。

日本でもこの新しい流れに沿うべく、技術革新に合わせて組織的な改革が成されてきた。開発途上国の組織管理者にとっても、こうした新しい時代における組織作りが必要であり、研修は管理者を対象にして、カリキュラムの内容についても、単にハードウェアや番組制作手法など

の技能修得だけでなく、上記の様な組織のあり方、番組制作の流れの中で必要となる機器の全体運用など、管理者としての職務知識の修得が可能となるように工夫した。

(2) 研修計画及び実績

5ヶ年計画による研修期間実績は、次の通りである。

第1回	1984年2月7日～3月17日	(40日間)
第2回	1985年2月25日～4月5日	(40日間)
第3回	1986年2月24日～4月5日	(41日間)
第4回	1987年2月23日～4月4日	(41日間)
第5回	1988年1月10日～2月17日	(39日間)

(3) R/Dにより決められたカリキュラムの主要項目

- ENG/EFPカメラの原理と実習
- VTRの原理と実習
- ENG/EFPの編集理論と実習
- 音声編集とポストプロダクション
- ENG/EFP番組計画
- ENG/EFPシナリオ作成、カメラワーク

(4) 各年度におけるカリキュラム及び実施計画

第1回～第5回に実施されたカリキュラム内容及び実施結果は次の通りである。

第1回（昭和58年度）1984年2月7日～3月17日（40日間）

初年度は、ENGの進歩、発展に対応する形で、まず管理者層の意識改革を目指すものとして計画された。

事前に、日本政府とAIBDとの間で合意されたR/Dに基づき、まず、講義と実習主体のカリキュラムが設定された。教材については、今までENGの運用・保守、管理についての英語版でのまとまったテキストが全くなく、個々の項目について単発的に雑誌等に発表されているに過ぎなかった。

この為、本コースのカリキュラムに沿ったテキストを新たに作成することとなり、短期派遣専門家として決定した、NHKの3名のその分野のエキスパートが、夫々手分けして作成することとなった。この結果、約3ヶ月を費やし、ようやく研修開始直前に完成した。

テキストを作成するに当り、留意した事項は次の通りである。

- 基礎技術から、応用技術に至るまでに正しい理解が得られる様に留意する。
- ENGの発展の背景、それに伴って運用・保守のありかたが、必然的に変わらねばならない事を強調する。

- ・出来る限り新しい技術に重点を置く。

研修実行上、コースの前半は基礎理論を主体とした講義を中心とし、後半を実習主体とした。この中で随時、新技術紹介、デジタル技術等、より高度なものを取り入れた。

全般的に言って、ハードウェア及び新技術に関する部分については研修員の興味が強かった様であった。

番組制作体制に関しては、各国の事情が様々であり、機器の整備だけに興味を持つ者、あるいはまた、番組制作だけに興味を持つ者など様々であった。これらは初年度研修の模索の部分であろうか。ただ、保守、運用面に関しては、各国とも、非常な関心を示していた。

この様な中で、A I B Dに派遣された矢口栄一長期派遣専門家の助言、指導が研修実施上有効であったことが短期専門家により報告されている。

また、9ヶ国、15名の研修員の専門分野、技術レベル等のバラツキが大きいとの指摘もあった。研修設備については、測定器が若干不足（オシロスコープ、ベクトルスコープ等）で、研修能率が悪かったとの報告がなされている。

この年度の、研修終了後の研修員へのアンケートによれば、研修のねらい、程度、及び内容とも適当であり、今後、業務上役に立つとの意見が多かった。なお、一部には基礎理論は不要、番組制作実習よりも故障修理実習をより多く、また、デジタル技術をもっと詳しくなど、先進技術を多く取込みたいとの声もあった。

研修は、次のスケジュールで、実施された。

計 画 及 び 実 施 結 果

1984年

月・日 曜日	カ リ キ ュ ラ ム	
	計 画	実施結果 特記事項
2月7日 (火)	研修員到着	派遣専門家・長期専門家、実施について協議
2月8日 (水)	開講式	オリエンテーション、各講師、研修員自己紹介
2月9日 (木)	各国報告	同左の他、各国現状報告、レポート作成、発表、 討論 (NHKの現状解説)
2月10日 (金)	ENGの概要 カメラのシステム	同左の他、システム・運用体制の変化・将来展 望カメラの進歩と将来展望
2月11日 (土)	休日	実習用機材準備・動作チェック (専門家)
2月12日 (日)	休日	講義打合わせ
2月13日 (月)	ENG/VTR、カメラの種類 VTR標準方式	同左
2月14日 (火)	カメラの原理と機能 VTRの原理と機能	同左の他、CCDカメラ解説、VTR各方式規 格
2月15日 (水)	カメラ回路とVTR回路	同左
2月16日 (木)	実習のための機材準備	同左の他、番組製作に対する安全対策
2月17日 (金)	番組撮影	屋外番組制作 (3班編成、1班:5名)
2月18日 (土)	視察旅行	実習中に故障したVTRの修理兼実習
2月19日 (日)	休日	視察旅行 (ゲンティン・ハイランド、パーツゲ ープ)
2月20日 (月)	録画	番組制作実習を含む
2月21日 (火)	テスト機器	3/4インチVTRサーボ系解説 映像機器の特性測定
2月22日 (水)	定期保守	実習説明、機器整備 (VTR、カメラ) カメラプロセス系の基本調整
2月23日 (木)	定期保守	カメラエンコーダー系の基本調整
2月24日 (金)	故障修理	同左のほか、故障修理の考え方について説明
2月25日 (土)	休日	
2月26日 (日)	休日	



2月27日 (月)	故障修理	同左
2月28日 (火)	TBC (タイムベースコレクター)	同左のほか、故障修理実習のまとめ、TBCの理論と機能
2月29日 (水)	TBC故障修理	デジタル機器の保守のほか、RTM視察
3月1日 (木)	CRTモニターの理論と故障修理	カラーモニターの調整法
3月2日 (金)	バッテリーの保守	ポータブル機器用電池の運用と保守について
3月3日 (土)	視察旅行	休日
3月4日 (日)	休日	視察旅行
3月5日 (月)	撮影の新技术	新技术 (ハンディスイッチャー、2画面伝送、ワイヤレスカメラ、空撮)
3月6日 (火)	ニュース技術、衛星伝送技術	同左のほか、テレビ標準方式 (NTSC、PAL、SECAM)
3月7日 (水)	照明実習	同左
3月8日 (木)	ENG編集	同左
3月9日 (金)	編集実習	映像編集 (3班に分れ番組制作実習で収録した素材を編集)
3月10日 (土)	視察旅行	休日
3月11日 (日)	休日	視察旅行
3月12日 (月)	副調を使ったポストプロダクション	RTMの設備使用 (運行、VTR室、テレシネ室、ホール、ラジオ、テレビ、スタジオ等)
3月13日 (火)	音声ダビングシステム	RTM研修所のラジオ、スタジオ使用。編集した映像テープに対する音声プログラムの作成
3月14日 (水)	音声ダビングシステム	完プロ作成、RTM研修所テレビスタジオ使用 編集した映像にタイトル等のテロップ挿入作業
3月15日 (木)	コース評価	同左
3月16日 (金)	帰国準備	同左
3月17日 (土)	帰国	同左

## 第2回(昭和59年度)1985年2月25日～4月5日(40日間)

昭和59年度は、各国の番組制作担当者(プロデューサー)と、機器の保守・運用に従事している技術者(エンジニア)に対して、ENGシステムの運用に必要な基礎理論と放送/技術の連携作業による番組制作指導をねらった。本年度は、初の試みとして、放送・技術合同の研修コースとして設定されたので、前半3日間だけ、放送・技術に分かれて講義をした他、全て合同の講義となった。

研修に使用した殆どの機材はAIBDから供与を受けたものであったが、機器の老朽化が激しく、例えば、5台のカメラの内、1台は色温度不良で派遣専門家により再三の調整がなされたが改善せず時間的制約もありRTMの機材を借用したり、あるいは、他班との相互使用をするなどの制約があった。編集機についても同様の報告がなされており、この当時から研修用機材の老朽度の問題が提起されていた。

技術部門の研修については、前年度作成のテキストを再度使用した他、NHK中央研修所の資料及び、放送番組の収録テープを使った。テープは一部日本語版のものも使用したが番組内容を示す面では十分に有効であった。

開講初日には、シンガポールの参加者から、質問書が提出された様に、全般に活発な質疑応答のなかで、カメラ、VTR、マイクロホンなどの機器の性能から、編集、音声、照明にいたるソフトウェアまで幅広く研修が行われた。合同講義の中では、JICA派遣長期専門家、矢口栄一氏が技術用語、基礎理論などを放送分野のプロデューサーにもわかり易く、明快な・解説をおこなった。同専門家の豊富な経験によるバックアップが大きかった。

研修終了直後の参加者へのアンケートによれば、

- ・研修内容、程度、レベルとも適当で有効なものであった。
- ・期間についても、約半数の参加者が適当と答えたが、半数は更に長期を希望した。
- ・次年度も自国職員の参加を勧めたい。

などの意見が出され研修は好評であったと言える。

なお、研修講師から研修機材について、日本では、既に使用していない程の旧形(カメラ)であり、IPTARのスタジオ設備についても、VTR室が離れている、音声卓が別室にあるなど、研修用として種々の不具合があるとの指摘がなされている。

研修は、次のスケジュールで実施された。

計 画 と 実 施 結 果

1985年

月・日 曜日	カ リ キ ュ ラ ム	
	計 画	実施結果 特記事項
2月25日 (月)	研修員到着	
2月26日 (火)	開講式 オリエンテーション	各国報告を求めた他、TV標準方式、シンガポールからの質問書を受領 注1
2月27日 (水)	各国報告、ENG/EFPの紹介	ENG/ENPの発展と状況説明、ENGの運用体制、伝送について説明
2月28日 (木)	カメラ・VTRの取扱い操作	同左の他、室内照明、デモンストレーション、受講生インタビュー 注2
3月1日 (金)	カメラ基礎理論(技術) ENG/EFPによる取材体制(放送)	同左
3月2日 (土)	休日	
3月3日 (日)	休日	
3月4日 (月)	VTR理論、TBC概要(技術) ENGによる取材体制(放送)	同左の他、ニュース制作について解説 注3
3月5日 (火)	ENG音声機器と取音・効果	同左
3月6日 (水)	照明技術 照明の基本と人工光、自然光	同左
3月7日 (木)	カメラワークの基本	同左の他、照明技術関係追加実施、カメラ、照明モニター試写
3月8日 (金)	ポストプロダクション、映像・音声編集	同左の他、映像音声編集、ホワイトバランスと色温度、カメラワークとVロケの基礎
3月9日 (土)	休日	
3月10日 (日)	視察旅行	ゲンティンハイランド
3月11日 (月)	故障修理	同左
3月12日 (火)	同上(技術)、ニュース番組の構成(放送)	同左の他、ニュース番組の編成、ABU/NHK特派員から見たENG(早良氏) 注4
3月13日 (水)	バッテリー保守・照明実習	同左
3月14日 (木)	技術トピックス(衛星放送、アジアビジョン他)	同左の他、ポストプロダクションなど映像音声新技術について
3月15日 (金)	ENG実習、取材計画プランニング	同左
3月16日 (土)	休日	

3月17日 (日)	休日	
3月18日 (月)	ENG撮影実習	同左
3月19日 (火)	ENG：音声録音実習	模擬会見などを撮影、収録実習、VTR編集
3月20日 (水)	ENG：映像編集	同左
3月21日 (木)	ENG：音声編集実習	同左の他、VTR編集を同時に実施
3月22日 (金)	ENG：完プロ作成実習	同左
3月23日 (土)	休日	
3月24日 (日)	視察旅行	ポートディクソン
3月25日 (月)	ENG実習制作番組評価	同左の他、TVスタジオ収録とVTR編集継続
3月26日 (火)	EFP：番組実習取材プランニング	VTR編集、EFP実習プランニング
3月27日 (水)	EFP：撮影実習	同左
3月28日 (木)	EFP：音声録音実習	同左の他、VTR編集追加実施
3月29日 (金)	EFP：映像編集	同左の他、VTR編集追加実施
3月30日 (土)	休日	
3月31日 (日)	視察旅行	マラッカ
4月1日 (月)	EFP：音声編集実習	同左
4月2日 (火)	EFP：完プロ制作実習	同左
4月3日 (水)	EFP：実習制作番組評価	ENG/EFP制作番組視聴、講評 注5
4月4日 (木)	コース総括評価、閉講式	同左
4月5日 (金)	帰国	同左

注1：開講初日に、シンガポール研修員から18項目の質問を提出される。ENG/EFP全般にわたるため、研修員全体にかかわるテーマとして、当日から質疑応答開始。コースを通して質問には即刻応じる方針をとった。

注2：照明技術についての関心が強く、取材のみならず、ドラマ、音楽番組等に至るまで、質問が出たため、予定を変更して継続。

注3：トピックスは、特に日を特定せず、実習時間の待機時間帯にVTRを視聴し説明を加えた。

注4：プロデューサー対象の講義（3月12日）に、ABU/NHK早良哲夫氏が海外特派員から見たENG取材と放送衛星、アジアビジョン（ニュース交換）について講演した。

注5：実習でカメラ及び3/4VTR編集機の一部不調、IPTAR（マレーシア放送研修所）スタジオ設備の調整不良等があり作業時間、日程を一部変更した。

第3回（昭和60年度）1986年2月24日～4月5日（41日間）

本年度も昨年と同様、放送部門と技術部門の合同形式で実施されたが、より専門的な分野に関しては講義実習とも、クラスを分け効率的かつ効果的な研修に努めた。

カリキュラムについては、初年度及び第2年度の研修実績を検討のうえ、新技術、新型カメラなども取り入れ充実を図った。

放送部門では、放送番組の収録テープを使用した講義方法を多く採用し、また、技術部門については、テキストだけの講義を出来るだけ避け、カメラ、VTR等のENG機器をその都度、分解、組立て、再調整、動作確認を行うなどOJT的手法を多く採用し効果を上げた。使用したテキスト類は、技術部門については、前年度と同じものであったが、放送部門については補助テキストを作成使用した。

ENG制作実習については、参加9ヶ国、21名を4グループに編成して実施した。テーマは『ENGニュース制作』とし、模擬交通事故リポート、インタビューなどを交え、ロケーション素材をもとに、スタジオにおけるアナウンサー顔出し、オープニング、エンディングなどを含む5分間ニュースを制作、放送局における実作業と同じ構成とした。特に、スタジオ制作実習においては、既設の副調設備を使わずにスタジオフロアを使用して、ENG関連機材（カメラ、VTR、TBC、ポータブルスイッシャー、ミクシングアンプ）を組上げて接続、動作テスト、調整、制作作業を行った事によって、各機器の役割、系統内容の意味、オペレーションテクニック等について、確実な技術移転がはかれた。

次の段階として、EFP番組制作実習においては、各国の放送事情に合わせてグループの再編成を行い、番組時間を7分間に限定した上で、テーマの選定、取材場所、方法、スタジオ制作手法等を全て研修員の判断により行った。この結果、4グループにより、『動物園』、『レクレーション公園』、『生鮮市場』、『土産物館』等の紹介番組が作られた。この段階では、前段で行った『ENGニュース制作』実習の成果が現れ、番組制作上の基本的ミスや粗さが薄れ、SE、BGM音声などの付加技術にも向上が見られた。

この年度の参加者はドラマ番組、農事番組、教育番組などの担当者が多かったが、ENGなど小形機材は本来ニュース取材等に威力を発揮するものであり、報道番組担当者を対象に絞った方が良いとの声もあったが研修初期と終了間近かとは、研修員の技術レベルに格段の向上が見られたと報告されている。

研修用機材については不足であったが、又吉専門家のバックアップにより、RTM、IPTARからVTR、カメラの機材貸与が受けられた。

研修は、次のスケジュールで実施された。

計 画 と 実 施 結 果

1986年

月・日	カ リ キ ュ ラ ム	
	計 画	実施結果 特記事項
2月24日 (月)	研修員到着	同左
2月25日 (火)	開講式、オリエンテーション、各国報告	同左の他、各国報告、NHK紹介 注1
2月26日 (水)	カメラ、VTRの理論と操作(技術)、ENGの応用	同左
2月27日 (木)	カメラワークの基礎理論とテクニックの実際	同左
2月28日 (金)	照明の基礎理論とテクニックの実際	同左
3月1日 (土)	休日	
3月2日 (日)	休日	
3月3日 (月)	音声理論とテクニック、TBCについて	同左の他、音声理論とインタビュー実習 注2
3月4日 (火)	映音編集と理論とテクニック	同左の他、撮影実習機材の準備 注2
3月5日 (水)	FPU(技術)、アジアビジョン(放送)、RTM見学(合同)	同左の他、3日のインタビュー実習素材の編集及び講評 注2
3月6日 (木)	故障修理	同左の他、FPUについて、その他、ABUについて(ABU早良氏) 注3
3月7日 (金)	バッテリー、モニター(技術)インタビュー、レポート、ナレーション(放送)	同左の他、TBCについて
3月8日 (土)	休日	
3月9日 (日)	視察旅行	マラッカ
3月10日 (月)	測定器テレビ標準方式(技術)デスクワーク(放送)	同左
3月11日 (火)	トピックス紹介、RTM見学	同左の他、テレビ標準方式(技術)
3月12日 (木)	予備日	ベーターカムVTR解説 注4
3月13日 (木)	ENG実習計画作成	同左
3月14日 (金)	ENG撮影取材実習	同左
3月15日 (土)	休日	

3月16日 (日)	休日	見学(ポートディクソン)
3月17日 (月)	ENG映像編集指導	同左
3月18日 (火)	“ “ “	同左
3月19日 (水)	ENG音声編集指導	ENG完プロ制作指導
3月20日 (木)	ENG完プロ制作指導	同左
3月21日 (金)	ENG実習作品検討	同左及びEFP計画作成
3月22日 (土)	見学	見学(クアラルンプール)
3月23日 (日)	休日	
3月24日 (月)	EFP実習計画作成	EFPロケーションハンティング
3月25日 (火)	“ 撮影実習指導	同左
3月26日 (水)	“ 映像編集指導	同左
3月27日 (木)	“ “	同左
3月28日 (金)	“ 音声編集指導	同左及びスタジオ機器及びセッティング
3月29日 (土)	休講	
3月30日 (日)	休日	
3月31日 (月)	EFP完プロ制作指導	同左
4月1日 (日)	“ “ “	同左
4月2日 (水)	“ 実習作品検討	同左
4月3日 (木)	コース全体講評	同左
4月4日 (金)	閉講式	同左
4月5日 (土)	研修員帰国	同左

注1：各国現状報告の後、NHKのENG、EFPシステムの現状を報告。

注2：音声マイクについては、講義だけではものたりず、マイクレンジを中心としたインタビュー実習を行い、編集も実施した。

注3：ABUスタッフの早良哲夫氏にアジアビジョン(ニュース交換)について、特別講義を受け、その理解促進のため、5日にRTMのニュース交換現場を見学した。

注4：一体形カメラへの関心が強いいためRTMの協力でカメラを借用し講義した。

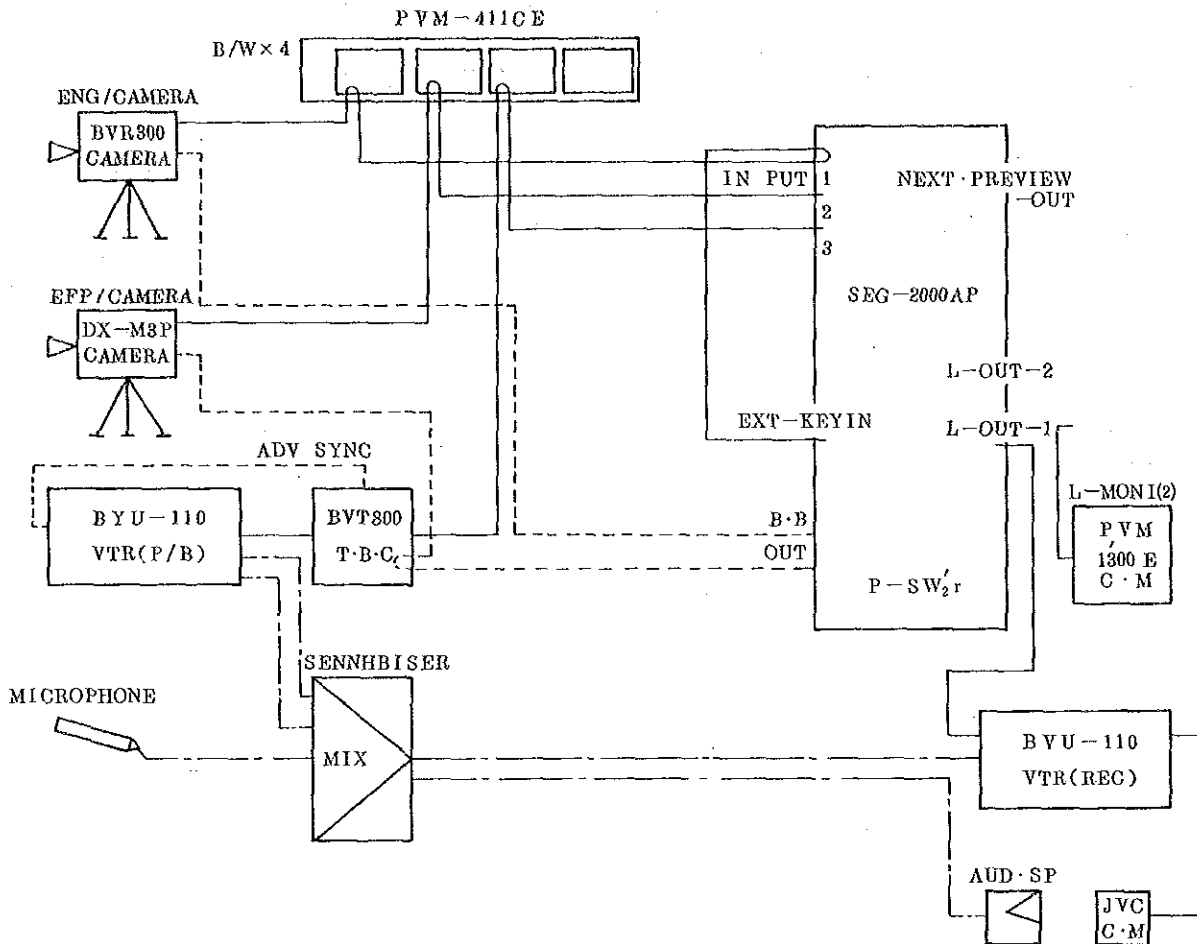
注5：ENG編集実習が早く終了したので、完プロ制作を2日間とした。

注6：EFPの重要性に鑑み、AIBDの車両2台を借用し実施した。

(参考)

第3回コース・ENGニュース制作実習・スタジオ制作機器系統図

(使用スタジオB)

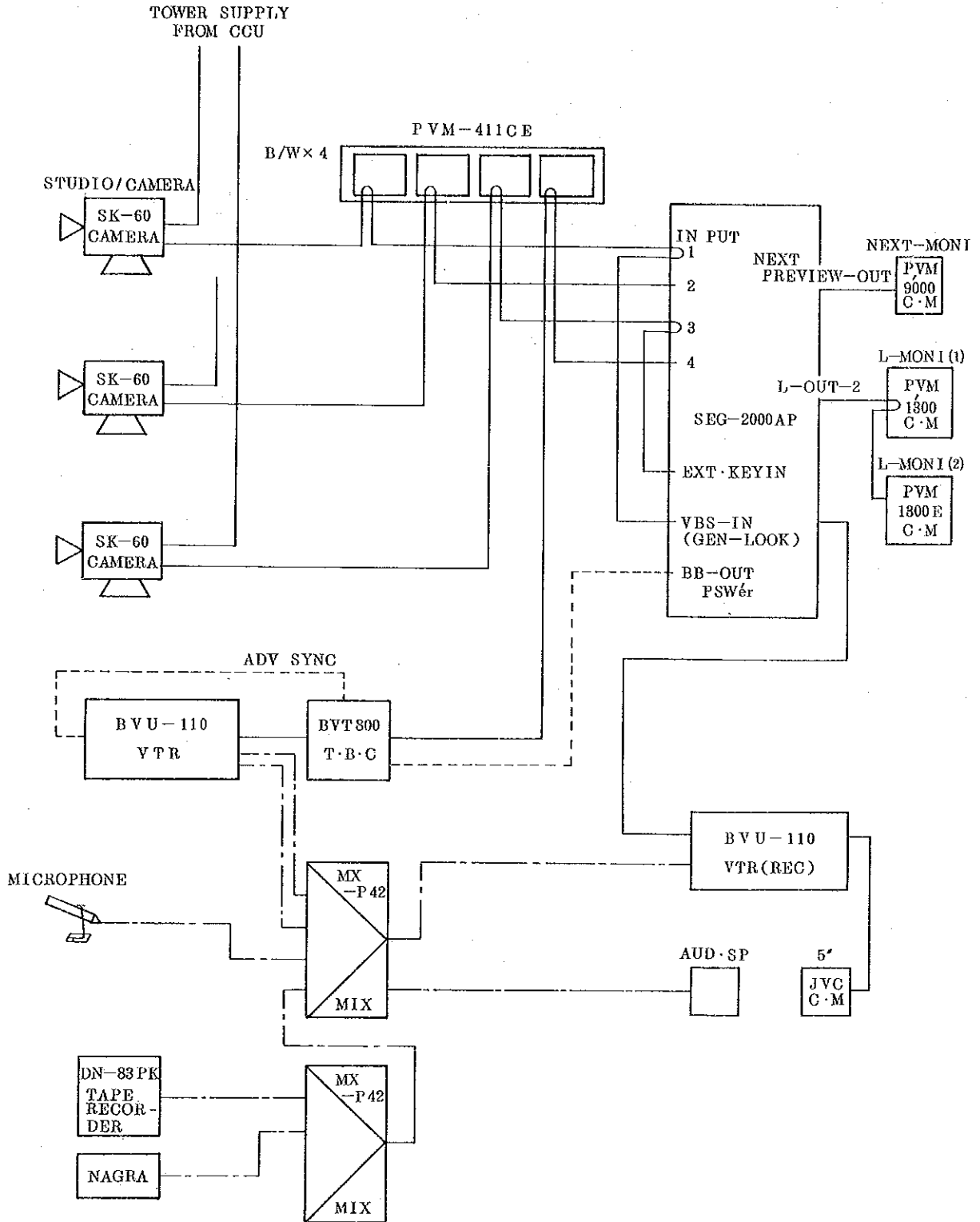




(参考)

第3回コース・EFP番組制作実習・スタジオ制作機器系統図

(使用スタジオA)



#### 第4回(昭和61年度)1987年2月23日～4月4日(41日間)

本年度は、参加21名の研修員を1グループ5～6名の4グループに分け、プロデューサー、エンジニアのバランスが取れる様に配慮した。更にこのグループの中で、

- ・プロデューサー……………プランニング、台本作成、コメント入れ、テロップ作成、選曲
- ・エンジニア……………カメラ、VTR、音声、照明、編集、スイッチャー

の各業務を分担させる方法を取った。

研修期間中、上記各グループは次の3通りの方法により、番組制作実習を行った。

- 1) AIBD紹介番組
- 2) ENG(政治・経済・事故・天気予報の4つのテーマを盛り込んだニュース番組)
- 3) EFP(市内を自由にロケし、ドキュメンタリーの要素を含む番組作成)

研修のポイントとしては、1)については、プランニング→ロケーション→編集→完成、2)、3)については、プランニング→ロケーション、編集、音入れ→テロップ・タイトル作成→完プロ作成→完成という要素を持たせた。

ENG/EFP実地研修は、又吉専門家を含む4人の日本人が各グループにつき、プランニングのアドバイス、機材の用意、安全の確保等に努めると共に、取材方法、番組構成方法の指導を行った。

研修員の声としては、講義よりも実習をより多くとの希望もあったが、基礎技術の修得なくしては実地の意味も持ちえないとの講師側の判断で、予定通りのカリキュラムで研修を行った。

機材については、毎年の事であるが講師陣から老朽化が激しいとの指摘が成されている。

その他、ポストプロダクションとしての画像処理技術、編集処理系統、あるいは、新技術(HDTV、衛星放送)に対する関心が極めて高かった事が報告されている。

今年度派遣の短期専門家は、ENG/EFPに関して十分な経験と知識を持ったベテランであったので実践的な講義が成し得た。番組制作実習においても、当初の目標を十分達成しえたと言える

研修は、次のスケジュールで実施された。

計 画 と 実 施 結 果

1987年

月・日 曜日	カ リ キ ュ ラ ム	
	計 画	実施結果 特記事項
2月23日 (月)	研修員到着	同左
2月24日 (火)	開講式、オリエンテーション	同左
2月25日 (水)	プロデューサーの役割、番組制作論(放送) ENG/EF Pカメラの概要と実習(合同)	同左
2月26日 (木)	カメラワーク・音声収録技術、ショートプログラム制作実習(合同)	音声収録は映音ダブル収録手法の紹介。4班に分け『AIBD紹介番組』の制作実習
2月27日 (金)	照明技術	講師は、IPTARラザ氏
2月28日 (土)	休日	次週のカリキュラムの確認
3月1日 (日)	休日	
3月2日 (月)	インタビュー及びリポートについて(放送) カメラの回路、インタビュー番組制作実習	同左
3月3日 (火)	編集(ハード・ソフト)『名曲アルバム』の鑑賞及び編集操作実習(合同)	編集の基礎と理論・編集機の操作、実習は、『AIBD紹介番組』の素材を使用
3月4日 (水)	編集操作実習及び作品評価(合同)、原稿と台本、番組研究(放送)	4班に分れ、編集操作実習 注1
3月5日 (木)	原稿と台本、番組研究(放送)、TBC理論・TV測定・FPU・バッテリー(技術)	同左のほか、前日残った編集後の作品評価を実施 ソフトクロマキー説明 注2
3月6日 (金)	ポストプロダクション(ビデオ・オーディオ)及びTV-3見学(合同)	同左
3月7日 (土)	視察旅行	マラッカ
3月8日 (日)	休日	
3月9日 (月)	プロデューサーのための、トピックス・映像研究(放送)カメラ保守、調整実習(技術)	アンカーマンの条件、知識向上のための講義(放送)ベーターカム故障修理(技術)
3月10日 (火)	プロデューサーのための、トピックス・映像研究(放送)VTRドラム交換実習(技術)	同左
3月11日 (水)	TV標準方式・方式変換、アジアニュース交換、RTM見学、新技術紹介(合同)	ABU早良氏の講演 RTM、アジアビジョンについて、RTM編集室視察
3月12日 (木)	新技術紹介(合同)	FPU、ヘリスター、HDTV、衛星中継、衛星放送、ビデオマット等
3月13日 (金)	ENGプランニング・ロケハン機材準備チェック	4班に分れて実施
3月14日 (土)	視察旅行	クアラルンプール見学

3月15日 (日)	休日	
3月16日 (月)	ENG：撮影実習及び試写	同左 注3
3月17日 (火)	ENG：映像編集実習	同左の他、影編集実習
3月18日 (水)	ENG：映像編集実習	同左
3月19日 (木)	ENG：スタジオセット／コメント作成及び完プロ作成	映像編集実習
3月20日 (金)	完プロ作成、手直し及び作品評価	同左
3月21日 (土)	視察旅行	ポートディクソン
3月22日 (日)	休日	
3月23日 (月)	EFP：プランニング・ロケハン機材セット	同左
3月24日 (火)	EFP：撮影実習	同左
3月25日 (水)	EFP：編集実習	同左の他、取材方法及び番組制作実習 注4
3月26日 (木)	EFP：編集実習	同左の他、撮影実習を含む
3月27日 (金)	音声処理、タイトルテロップ作成	同左
3月28日 (土)	休日	
3月29日 (日)	休日	
3月30日 (月)	EFP：スタジオセット／台本作成、完プロ実習	編集実習を継続
3月31日 (火)	EFP：完プロ作成実習	DVE、HDTVについて講義 注5
4月1日 (水)	EFP：完プロ作成実習、番組評価	同左
4月2日 (木)	コース評価	同左
4月3日 (金)	閉講式	同左
4月4日 (土)	帰国	同左

注1：編集機材2式を4グループが使用したため、時間的に余裕がなかった。また、内1式は老朽化した編集システムであった為、同一条件での研修が行なえなかった。

注2：合同の作品評価に引き続き、プロデューサーにとっても、関心のある『ソフトクロマキー（NHK開発）』の説明を実施した。

注3：ENG撮影実習は、フランスのコースと競合し老朽化した設備しか使用出来なかった。このため、画質不良が著しく、この日はカメラの講義を実施。（1グループのみ）

注4：24日の撮影実習状況から見て、番組構成上実施。

注5：ベルギーのコースと競合（ドキュメンタリーコース）し、使用可能な機材が使用出来なくなり、急遽、DVE、HDTVの講義を実施。

第5回(昭和62年度)1988年1月10日～2月17日(39日間)

本年度は、第三国研修5ケ年計画の最終年度に当たる。

過去4年間の研修実績と経験をもとにカリキュラムを設定し、また、実行面においても、専門家の継承性の中でENG研修の一つのパターンが確立されたと言える年度であった。

今年度の特徴として、講義においては、各講師の担当分野をより明確にさせている。

岩浪弘康氏

- ・インタビューのポイント
- ・スクリプト/コメント
- ・ENG/EF Pのプロデューサーの役割
- ・番組計画手法
- ・ロケハンの要点
- ・撮影台本の要点

渡辺敏明氏

- ・バッテリーの保存
- ・カメラの調整法
- ・一体形カメラ
- ・ハイスピードカメラ
- ・カメラ保守のための測定
- ・Hi-Vision
- ・CCDカメラ
- ・タイムベースコレクター

又吉元亮氏

- ・デジタルシステムコンバーター (NTSC/PAL/SECAM)

また、実習においては、今年度も参加者を4グループに分け、各チームにリーダーをおいて、出来るだけ自主性を持たせた。実習のために、設定した番組テーマは、次の通りである。

グループ	第 1 回 目	第 2 回 目
Aグループ	Live or Leave	Central Market
Bグループ	This is AIBD	The Lake Garden
Cグループ	Homesick	A Growing Business
Dグループ	Nursery	Papillon

完成した番組は、JICA事務所の今井所員も交えて、参加者全員で試聴し評価を行った。

ENG/EF Pコースも今年度で5年目となり当初の目的は十分達成されたと言えよう。

また、今年度の講師陣の特徴として、3名の内1名が前々回の講師経験者であり、その体験が生かされた事が挙げられる。今後この種の研修を続けて行く上で、研修技術の継承性を考慮して、講師の再起用等も行っていくべきであろう。更に、今年度で任期3年目になる、長期専門家の又吉元亮氏の多大なバックアップと指導力に負うところが大きい。今後も長期専門家の継続派遣は、ぜひ必要である。

各国の研修員も、5年の間にレベル向上が見られ、単なるENG/EFPの操作、保守だけでは、満足し得なくなっているのも事実である。新技術への強い関心、放送/技術とも、より高度な研修を望んでいる事など、このコースが5ヶ年間の役割を果たし、次のより高度なものへと発展する事が期待されていると言える。

なお、機材に関しては今年度ようやく、AIBDによって新型CCDカメラ2台が導入され、研修に威力を発揮したが、編集機材、音声機材については、まだ不十分であると指摘されている。

この5年間に日本の放送分野の技術は更に進んだ。各国とのレベル差は、かえって広がったのではなかろうか。このギャップを縮める様、今後も日本の援助努力が求められよう。

研修は、次のスケジュールで実施された。

計 画 と 実 施 結 果

1988年

月・日	カ リ キ ュ ラ ム	
曜日	計 画	実施結果 特記事項
1月10日 (日)	研修員到着	同左
1月11日 (月)	開講式・オリエンテーション・各国報告(合同)	同左
1月12日 (火)	ENG/EFP番組の基礎、カメラの概要、VTRの概要、番組の検討(合同)	同左
1月13日 (水)	カメラワークの基本、カメラ・VTRの説明と操作、カメラ操作実習(合同)	同左
1月14日 (木)	ENG/EFP番組に於ける音声の役割、音声収録の基本、音声収録の実習(合同)	同左
1月15日 (金)	照明の基礎理論(合同) 照明の実習	講師はAIBDのタン氏
1月16日 (土)	休日	
1月17日 (日)	休日	
1月18日 (月)	プランニングの方法・プランニング実習 ENG/EFPの収録実習(合同)	同左の他、ロケ台本の作成について(放送)ロケ機材の事前チェックについて(技術) 注1
1月19日 (火)	カメラの基礎理論、VTRの基礎理論 インタビューの基本、リポーター論(合同)	番組収録時におけるトラブル対処法、TV・3見学(技術)プランニングの方法(放送) 注2
1月20日 (水)	TBCの概要、一体形カメラの概要、ロケ台本及びコメント作成について(合同)	同左の他、カメラの基礎理論、ミニ番組収録実習(合同) 注3
1月21日 (木)	ENG/EFP番組におけるPDの役割(放送)、カメラの回路について(技術)	同左の他、インタビューの基本、リポーター論(IPTARのチャン氏)(合同) 注4
1月22日 (金)	FPU、バッテリーの運用と保守、映像研究(合同)	同左の他、TBCの概要、VTRの基礎理論 注5
1月23日 (土)	休日	以後のカリキュラムについて打合せ
1月24日 (日)	休日	
1月25日 (月)	TV方式と方式変換、アジアビジョンの概要、RTM見学(合同)	同左(講師:又吉専門家)
1月26日 (火)	カメラの画質評価と測定法、カメラの定期保守、機材の障害対処・編集障害対処(合同)	同左の他、ENG/EFP番組におけるPDの役割 注6
1月27日 (水)	VTRの定期保守、VTRの調整及び実習(合同)	同左の他、ENG/EFP機器の故障修理、EFP制作実習計画指導(合同) 注7
1月28日 (木)	新技術紹介(ニューメディア、ニューテクノロジー、ハイビジョン、CCDカメラ)	同左の他、FPUの講義、RTMの中継車見学
1月29日 (金)	新技術紹介(デジタルビデオ・衛星放送・ハイスピードカメラ)ビデオマット(合同)	同左

1月30日 (土)	休日	講師によるロケ地の下見
1月31日 (日)	休日	ベナン
2月1日 (月)	休日 (クアラルンプル市政記念日)	
2月2日 (火)	編集の基礎理論、編集機の操作説明 編集実習	同左
2月3日 (水)	ロケハン実習 ロケ台本制作実習 (合同)	同左
2月4日 (木)	ロケ実習 (合同)	同左
2月5日 (金)	ロケ実習 (合同)	同左の他、ロケ機材撤収作業、収録内容試写
2月6日 (土)	休日	
2月7日 (日)	休日	
2月8日 (月)	EFP編集実習 (合同)	同左
2月9日 (火)	EFP編集実習 (合同)	同左
2月10日 (水)	スタジオセッティング実習 完プロ実習 (合同)	同左
2月11日 (木)	完プロ実習 (合同)	同左
2月12日 (金)	完プロ実習 (合同)	前回のミニ番組の試写、作品検討 注8
2月13日 (土)	休日	
2月14日 (日)	休日	
2月15日 (月)	実習作品の試写・検討 (合同)	同左
2月16日 (火)	閉講式	
2月17日 (水)	帰国	

注1：研修員のレベルを考え、プランニングよりも具体的なロケ台本作成が有益と判断した。

また、放送、技術を分けて、より実践的指導を行った。

注2：前日の収録時の問題対策。VTRの基礎理論については再度実施。AIBDの手配によりTV3の見学実施。

注3：1月19日予定のカメラの基礎理論を実施。1月18日予定の収録実習が機器障害のため十分でなかったため、再度実施した。

注4：1月19日分を実施。放送グループのみTV3の見学。

注5：1月19日、20日予定分を実施。

注6：1月21日、26日予定分を実施。

注7：実習番組のテーマ及びロケ地の適正さを知るため、プランニングを早めにおこなった。

ENG/EFP障害修理については1月26日分を実施。

注8：完プロ実習が早く終了し、また、前回のミニ番組の試写時間がなかったため。



## 2.3 実施体制

### (1) 実施機関組織図

AIBDの組織については、6頁の「AIBD組織図」の通りである。

### (2) 関連組織の支援体制等

#### 1) 組織

AIBDの運営は、11ヶ国(\*注)から構成される管理理事会(Governing Council)により運営されている。その他、投票権のない理事機関として、UNESCO、UNDP、ITU、ABUが参加している。

\*注 11ヶ国：バングラディッシュ、フィジー、パキスタン、パプア・ニューギニア、フィリピン、インド、インドネシア、韓国、ネパール、スリランカ、マレーシア

#### 2) 参加国

1988年現在のAIBD加盟国は次の通りである。

アフガニスタン、バングラディッシュ、フィジー、中国、インド、インドネシア、イラン、韓国、ラオス、マレーシア、モルジブ、ネパール、パキスタン、パプア・ニューギニア、フィリピン、西サモア、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナム、の20ヶ国であり、現在参加手続き中の国は、ソロモン諸島、フランス、オーストラリア、ニュージーランドである。

#### 3) 財政

AIBDを維持するための財政は、次の表に示すように基本的にはAIBD参加各国による拠出分担金により賄われる他、各国の援助機関からの研修コース助成金、国内通貨基金等によって維持されている。

## A I B D加盟国の拠出金状況

1985年度及び1987年度の参加各国の分担金

(US\$)

国名	1985年度	1987年度
アフガニスタン	500	750
バングラデシュ	3,000	4,500
フィジー	500	750
インド	21,000	30,000
インドネシア	8,000	12,000
イラン	1,000	1,500
韓国	8,500	12,750
マレーシア	24,000	36,000
ネパール	500	750
パキスタン	3,000	4,500
パプア・ニューギニア	4,000	6,000
フィリピン	3,000	4,500
西サモア	500	750
シンガポール	4,000	6,000
スリランカ	9,000	13,500
タイ	2,500	3,750
ベトナム	1,000	1,500
合計	94,000	139,000

日本は未加盟である。

A I B D の収入と支出

ASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENT

INCOME AND EXPENDITURE ACCOUNT  
FOR THE YEAR ENDED 31 DECEMBER 1986

INCOME	Note	1985
International programme support	\$2,448,713	\$2,432,115
Subscription	339,980	250,299
Surplus on hostel accommodation	9,010	1,120
Domestic currency fund	101,094	77,852
Interest on fixed deposits	32,802	27,615
Gain on foreign exchange	38,737	17,389
Surplus on administrative fees	12,252	2,187
Sale of manuals	12,969	8,693
Sundry receipts	51,056	61,606
Gain on sale of fixed assets	10,980	-
	3,057,593	2,878,876
 LESS: EXPENDITURE		
Airfare	690,166	637,065
Accommodation	136,201	138,424
Audit fees	4,500	4,697
Proceeds receivable from project written off	17,700	-
Bank charges and interest	7,659	8,181
Course material	70,169	57,110
Printing and stationery	44,184	51,796
Communication	82,302	83,084
Equipment from aid sources	43,484	22,292
Freight	12,583	13,374
Honorarium	107,630	114,212
Gratuity	36,547	29,003
Institutional membership	1,296	1,412
Depreciation	42,398	31,967
Employees Provident Fund	40,453	35,551
Per Diems	713,279	698,357
Hospitality	70,121	69,069
Insurance and medical	45,752	49,034
Local travel/maintenance of motor vehicles	65,315	61,981
Maintenance of office equipment and hostel	35,899	28,422
Miscellaneous expenses	12,548	25,839
Salaries and allowances	698,082	635,979
SOCSO	4,850	4,440
Fixed assets written off	-	4,600
Visa fees	900	751
Legal fees	2,500	-
	2,986,518	2,806,640
EXCESS OF INCOME OVER EXPENDITURE	\$ 71,075	\$ 72,236

The notes set out on pages 4 and 5 form an integral part of, and should be read in conjunction with, these accounts.

(3) 研修指導

1) 講師

AIBDの講師等スタッフは、所長以下専門スタッフ、補助スタッフ30名程度及び数名のマレーシア人スタッフから構成されている。

本ENG研修については、5年間にわたり、JICAは毎年3名の短期専門家を派遣した。研修コースの中で一部の講座については、AIBDのスタッフ(助手)によって講義が行われたが、大部分については、日本からの派遣専門家が担当した。また、AIBDに派遣されているJICA長期専門家、矢口栄一氏及び又吉元亮氏によって、随所でアドバイスを受けるとともに一部の講義が実施された。更に、NHKからABUに派遣されている特派員によっても最近の世界ニュース、ニュース交換等について講義を受けた。第1回～第5回の講師スタッフは、次の通りである。

年 度	氏 名	研 修 での 役 割	所 属
第1回 (1984年)	矢口 栄一 デュライラジャー 宮内 修一 清水 哲 西山 博一 コー・ワー・キヤー ゴーン・スエー・レン タン・ユー・シン チャナン・シン	コース・ダイレクター コース・コーディネーター リソース・パーソン リソース・パーソン リソース・パーソン CRTモニター理論 (助手) 故障修理実習 (助手) 編集実習 (助手) 編集実習 (助手)	JICA長期専門家 AIBD JICA短期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 IPTAR-RTM RTM IPTAR-RTM IPTAR-RTM
第2回 (1985年)	矢口 栄一 土倉 亨一 中島 邦典 篠田 光昭 早良 哲夫	コース・ダイレクター リソース・パーソン リソース・パーソン リソース・パーソン 特別講師	JICA長期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 ABU-NHK
第3回 (1986年)	又吉 元亮 福岡 薫 伊藤 安明 渡辺 敏明 タン・ユー・シン 早良 哲夫	コース・ダイレクター リソース・パーソン リソース・パーソン リソース・パーソン 編集実習担当 特別講師	JICA長期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 AIBD ABU-NHK
第4回 (1987年)	又吉 元亮 清原 隆雄 寺田 武夫 福田 雅之 アブドゥル・ラザク 早良 哲夫	コース・ダイレクター リソース・パーソン リソース・パーソン リソース・パーソン 照明技術担当 特別講師	JICA長期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 IPTAR ABU-NHK
第5回 (1988年)	又吉 元亮 山本 寧夫 渡辺 敏明 岩浪 弘康 森口 ひろし タン・ユー・シン チャナン・シン	コース・ダイレクター リソース・パーソン リソース・パーソン リソース・パーソン 特別講師 照明技術担当 カメラの回路担当	JICA長期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 JICA短期専門家 ABU-NHK AIBD IPTAR

## 2) 教 材

日本政府とAIBDによって合意されたR/Dに基づき講義と実習主体のカリキュラムが設定されたが、計画当初、教材等についてはENGの運用・保守、管理についての英語版でのまとまったテキストが全くなかった。

このため、本コースのカリキュラムにそったテキストを作成することとなり、第1回の短期派遣専門家に決定したNHKの3名のエキスパートが各々手分けして研修教材を作成した。

第1年度は、ENGトレーニングマニュアル-I、及び同IIとして作成し、第2年度には、同III及びIVを作成した。また、NHK中央研修センターで作成された”NTSC, PAL, and SECAM”等の研修教材も使われた。

実習用の教材としては、上記のテキストの他、NHKで制作した番組をビデオテープで持込み適宜教材として有効に使用した。

日本から、教材として持込んだビデオテープ等は次の通りである。

### 第1回(1984年)

ビデオテープは3/4インチVTRで持込み。

- ・DVE世界のポップミュージック・ショー
- ・日食特番
- ・TOC Auto-Editing
- ・TOC 編集システム
- ・ニュース パトロール

### 第2回(1985年)

ビデオテープは3/4インチVTRで持込み。

- ・VTRロケの基礎
- ・照明の基礎 Mini-Handy-Camera
- ・This is ENG (1980年版) (英語版)、SS-1テレビパトロールカー、ワールドニュースリポート
- ・効果音・カメラワーク
- ・電池・トラブルシューティング(英語版)
- ・中継無線・2画面伝送
- ・固体カメラ
- ・19時ニュース(1985. 1. 28) (英語版)、NC-9、
- ・ニュースウィークリー(1985. 1. 21) (英語版)、正午ニュース素材
- ・ニュース特集・グリコ森永事件(1984. 12. 10) (英語版)

- ・ドラマ・宮本武蔵
- ・A B U特集、今日のスポーツニュース
- ・教育番組、ニュースウィークリー（英語版）
- ・アジアビジョン

第3回（1986年）

ビデオテープは、3/4 インチV T Rで持込み。

- ・8 m/m ビデオ関係、ハングライダー 5 3 分
- ・潜水、顕微鏡カメラ、空撮 4 3 分
- ・日光東照宮 4 3 分
- ・永平寺（英語版） 5 0 分
- ・人間は何を食べてきたか（英語版） 4 5 分
- ・文字放送・衛星放送 5 分
- ・ヘリスター研修資料、J A L事故 3 7 分
- ・アジアビジョン・How To Video 3 2 分
- ・可搬C-IIの組立て 2 5 分
- ・目で見るとラブル集 6 0 分
- ・H S Cデモテープ、N特『ハワイの島々』、  
V T Rトラブル集 5 0 分
- ・Hi-Vision デモテープ（英語版） 1 7 分
- ・スキーバス事故（英語版） 5 分
- ・N H K編集システム

第4回（1987年）

ビデオテープは1/2 ベータマックスV T Rで持込み。

- ・8 6 . 8 茨城県水害ニュース
- ・できるかな？（英語版）、レンズの中の夏
- ・シルクロード（英語版）、名曲アルバム I
- ・名曲アルバム II、III
- ・ハイビジョン冬の詩
- ・N特・博多山笠（英語版）
- ・桂離宮（英語版）
- ・ロケ照明のコツ
- ・日本とろどころ（英語版）
- ・パンダの赤ちゃん（英語版）、こずえ物語

- ・ビデオロケの基礎
- ・ヘリスター訓練、テレパトの一日
- ・軽音楽のステレオミクシング
- ・音声技術
- ・イメージ・ナウ
- ・ワルシャワ物語、エルベの出会い
- ・D V E
- ・照明技術

・これがNHK（英語版）

第5回（1988年）

- ・シルクロード（天馬の故郷）
- ・名曲アルバム
- ・N特（博多山笠）（英語版）
- ・桂離宮（英語版）
- ・こずえ物語（英語版）
- ・日光東照宮
- ・永平寺（英語版）
- ・人間は何を食べてきたか（英語版）
- ・パンダの赤ちゃん（英語版）
- ・オートセットアップカメラの動作
- ・イメージナウ「映像を創る」(1)(2)
- ・ベーターカムシステム
- ・T・B・Cの動作
- ・電池管理（英語版）
- ・目で見るトラブル集
- ・ヘリスター研修テープ
- ・This is NHK（英語版）
- ・S N G
- ・This is Hi-Visio Part II、III（英語版）
- ・CCDカメラ比較テープ
- ・D V Eの作成映像
- ・ビデオハイスピードカメラVTRシステム、デモテープ
- ・Video-Mutte-Demo-Tape（英語版）







6. ENG VTR	ソニー BVU-50	: 3台
7. ENG VTR	JVC CR-4400LE	: 1台
8. WFM	タイプ528	: 1台
9. ベクトルスコープ (テクトロニクス)		: 1台
10. オシロスコープ (テクトロニクス2236)		: 1台
11. VTR	ソニー BVU-800	: 2台
12. VTR	ソニー BVU-200	: 2台
13. 編集機	ソニー BVE-500	: 1台
14. 編集機	ソニー BVE-800	: 1台
15. ビデオスイッチャー	SEG-2000AP	: 1台
16. カラーモニター	ソニー PVM1370	: 4台
17. B/Wモニター		: 2台
18. 一体形カメラ	ソニー BVW-3P	: 1台 (RTMから借用)
19. VTR	ソニー BVW-40P	: 1台 (RTMから借用)
20. 音声ミクシングアンプ	ソニー MX-P21	: 1台 (8入力)
21. 音声ミクシングアンプ	ソニー MX-P4	: 1台 (4入力)
22. 音声ミクシングアンプ	ゼンハイザー	: 1台 (4入力)
23. 音声録音再生機	ソニー PT-5	: 4台
24. 音声録音再生機	ナグラ 4E	: 1台
25. 音声録音再生機	デンオンDN-83PK	: 1台
26. 音声録音再生機	タイプ1100(カセット)	: 2台
27. マイクロホン		: 10本
28. タイムコードジェネレーター	ソニーBK-112	: 2台
29. タイムベースコレクター	ソニーBVT-810	: 1台
30. マルチメーター		
31. ツールセット		
32. スライドプロジェクター		
33. オーバーヘッド・プロジェクター		
34. 車両		
35. ビデオカセットテープ	KCS20	: 20巻
36. 2インチ ビデオテープ		: 1巻
37. 音声カセットテープ		: 10巻
38. その他、必要とする部品、治具、アクセサリーなど		

第4回(1987年)

1. TVスタジオA (フローア-及び照明器具のみ使用)			
2. TVスタジオB (フローア-のみ使用)			
3. ENGカメラ	ソニー	BVP-300 P	: 1台
4. ENGカメラ	JVC	KY-1900	: 1台
5. ENGカメラ	ソニー	DXC-M3 P	: 2台
6. ENGカメラ	ソニー	BVU-110	: 4台
7. ENG VTR	ソニー	BVU-50	: 2台
8. WFM		タイプ528	: 1台
9. ベクトルスコープ (テクトロニクス)			: 1台
10. オシロスコープ (テクトロニクス2236)			: 1台
11. VTR	ソニー	BVU-800	: 2台
12. VTR	ソニー	BVU-200	: 2台
13. 編集機	ソニー	BVE-500	: 1台
14. 編集機	ソニー	BVE-800	: 1台
15. ビデオスイッチャー	SEG	2000AP	: 1台
16. カラーモニター	ソニー	PVM1370	: 6台
17. 音声ミクシングアンプ	ソニー	MX-P21	: 1台 (8入力)
18. 音声ミクシングアンプ	ソニー	MX-P41	: 1台 (4入力)
19. 音声ミクシングアンプ	ゼンハイザー		: 1台 (4入力)
20. 音声録音再生機	ソニー	PT-5	: 4台
22. 音声録音再生機	ナグラ	4E	: 1台
23. 音声録音再生機	デノン	DN-83PK	: 1台
24. 音声録音再生機		タイプ1100 (カセット)	: 2台
25. マイクロホン			: 10本
26. タイムコードジェネレーター	ソニー	BK-112	: 2台
27. タイムベースコレクター	ソニー	BVT-810	: 1台
28. タイムベースコレクター	ソニー	BVT-800	: 1台
29. ベーターMAX3システムVTR			
30. VHS3システムVTR			
31. スライドプロジェクター			
32. オーバーヘッド・プロジェクター			
33. 車両			

34. ビデオカセットテープ                      KCS 2 0                      : 4 0 巻  
35. 音声カセットテープ                      : 1 0 巻  
36. その他、必要とする部品、治具、アクセサリなど

#### 第 5 回 (1988年)

第 5 回コースについても、研修に使用された資機材は、前年までのものと殆ど同じである。機器の老朽化が目立った。

#### (4) 研修運営

##### 1) 受入れ手続き

受入れ手続きは次のとおり。

- ① 研修コースの応募要綱 (General Information) は、招請状とともに、A I B D から UNDP 各国事務所へ、コース開始 4 ~ 6 ヶ月前に送付される。写しは各国の放送局長、UNESCO 国内委員会、国立放送研修所長あてへ、それぞれ送付される。
- ② 研修員候補者は、所定の要請書に所要事項を記入の上、所属する放送局長の承認を得る。同要請書は、各国の UNDP 事務所を通じて、締切日 (通常、コース開始 6 ~ 7 週間前に設定) 前に、A I B D へ提出される。
- ③ 研修員受入通知書は、受入れが決定した研修員に対し、直接コース開始前約 4 ~ 6 週間前に送付される。同通知書の写しは、各国の UNDP 事務所、放送局長、国立放送研修所長あてに、それぞれ送付される。

2) 本コースの応募要綱 (General Information) については、添付資料 5 の通りである。

##### 3) 運営管理

A I B D は、アジア・太平洋諸国の放送技術向上のために研修を実施することを主な目的として設立された機関であり、この種のコースの運営には多くの経験を有している。従って本コース運営についても殆どの事柄について A I B D 側で実施された。

##### 4) 生活環境

研修員は、I P T A R 付属のホステルに宿泊した。ホステルには食堂が併設されている。ホステルの各室は個室となっている。洗面所は 2 室で共有であるが、管理、清掃等が行届いており衛生上の問題はない。

研修員には、一日当りの滞在費として、5 5 マレーシア \$ が支給されている。支給額について研修員からの不満は聞かれていない。

##### 5) 予算措置

研修経費については、R / D に基づき、日本からの協力によって措置された。詳細については、2. 5 日本の協力実績の項で述べる。

## 2. 4 研修員受入実績

昭和58年度から昭和62年度までの5ケ年間に、マレーシアからの研修員24名を含む99名の研修員を受け入れた。国別、年度別実績は下表のとおりである。

年度 国名	58	59	60	61	62	計
バングラデシュ	1	2	2	2	3	10
ブルネイ	0	2	2	0	2	6
中国	0	2	2	1	2	7
インド	1	2	2	3	1	9
インドネシア	1	0	0	2	0	3
イラン	1	2	0	0	0	3
韓国	0	2	0	2	1	5
マレーシア	7	4	6	5	2	24
フィリピン	1	2	0	0	1※	4
パキスタン	1	2	2	2	2	9
シンガポール	0	2	0	0	1	3
スリランカ	1	0	2	2	3	8
タイ	0	2	2	2	2	8
計	14	24	20	21	20	99

※途中帰国

なお上記の他、UNESCOの資金により、ブータン1名、ジンバブエ1名及びガンビア2名の計4名の研修員を受け入れた。

## 2. 5 日本の協力実績

### (1) 第三国研修に要した経費（研修員招聘及び研修実施に要した経費）

経費	年度					
	58	59	60	61	62	計
マレーシア・ドル	ドル 45,359	ドル 100,800	ドル 111,825	ドル 92,619	ドル 90,255	ドル 440,858
※ 邦貨換算額（参考）	千円 4,572	千円 10,425	千円 9,233	千円 5,654	千円 4,615	千円 34,499

※1月平均レートで換算

### (2) 派遣専門家及び携行機材

年度	研修期間	派遣専門家 (所属先は全て NHK)	携行機材		数量				
			モデル名	機材名					
57			1	MZ-808 Keyboard with display	Sharp Micro Computer and accessories	1			
				MZ-8BK Expansion I/O Port		1			
				MZ-80PUB Printer		1			
				MZ-8BP51 I/O Card for above		1			
				MZ-88PAC cable		1			
				Auto Voltage Regulator		1			
			2	C60		Programming Cassette Tape	3		
			3	MZ-80BF		Floppy Disk with drivers card for above cable	1		
				MZ-8BF1			1		
				MZ-8BFC			1		
			58	59.2.7~59.3.15 (40日間)		<長期>矢口栄一 <短期>宮内修一 <短期>清水 哲 <短期>西山博一			
59	60.2.25~60.4.5 (40日間)	<長期>矢口栄一 <短期>土倉亨一 <短期>篠原光昭 <短期>中島邦典							
60	61.2.24~61.4.5 (41日間)	<長期>又吉元亮 <短期>伊藤安明 <短期>渡辺敏明 <短期>福岡 薫	4	528 PAL SONY	Waveform Monitor	1			
			5	BK-112 SONY	Timecode Generator	2			
			6	BK-102	Interface Kit For BVU-50	2			
			7	BVT-800 PS(P)	Digital Time Base Corrector	1			
			8	KX-14 CPI	Colour TV Monitor	1			
			9	P5-30 P5-60 P5-90	8 mm Tapes	9	9		
						8	8		
						7	7		
			10	CCD-V8AF/EK	8 mm Video Camcorder	1			
			11	RM-E100V	Remote Commander	1			
			12	NP-22	Battery Pack	5			
			13	AC-V8E	AC Power Adaptor	1			

年度	研修期間	派遣専門家 (所属先は全て NHK)	携行材料		数量	
			モデル名	機材名		
60			14	BE-V805	Videocassettes Eraser	1
			15	IC-V805	Carrying Case	1
			16	ECM-Z200	Microphone	1
			17	NV-630	National Video	1
			18	AL-2100	National CTV	1
61	62.2.23~62.4.4 (41日間)	<長期>又吉元亮 <短期>清原隆雄 <短期>寺田武夫 <短期>福田雅之	19	BVT-810P	Time base Corrector	1
			20	J-6001-840-A	Drum Ecc Gauge	1
			21	J-6001-830-A	Drum Eccentricity Gauge	1
			22	J-6001-820-A	Drum Eccentricity Gauge	1
			23	J-6001-930-A	Drum Eccentricity Gauge	1
			24	A-6709-102-A	Head Drum Ass'y RV-12	1
			25	CCV-31F	Standard Color Viewer	1
			26	VA-3,3A	Power Transformer	1
			27	ITE-HI-DEF 1	Test Chart Color Viewer	1
			28	0.5MHz-6MHz	Test Chart K	1
			29	11STAGE-ITE-NHK	Grey Scale	1
			30	DXC-3000P	CCD Colour Camera	1
			62	63.1.10~63.2.17 (39日間)	<長期>又吉元亮 <短期>岩波弘康 <短期>渡辺敏明 <短期>中村寧志	31
32	EIA Transparent	Test Chart				1
33	SL-800ME Sony	Multi-VCR B-Max				1

### 3. 評価活動の実績

本第三国研修が実施された5ケ年間の評価活動としては、AIBDへ派遣されたJICA専門家の報告、研修コース終了の都度実施する研修員へのアンケート調査、JICAが派遣した第三国研修管理ミッションによる報告がある。

#### (1) 専門家の報告書及び研修員へのアンケート調査

各年度のコースの概要、問題点、改善点、評価、フィードバック等については、専門家の報告書及び研修員へのアンケート調査の結果に基づいて、2.2「研修計画」の(4)「各年度におけるカリキュラム及び実施計画」の項で報告したので参照願いたい。

#### (2) 第三国研修管理ミッション報告書

第1回研修研修コース終了後、昭和59年3月10日より3月17日まで、第三国研修管理ミッションがAIBDへ派遣された。

同ミッションの報告要旨は次のとおり。

- 1) 第1回研修コースは、効率的に行われ成功裡に終了したものと評価できる。
- 2) 研修参加各国の状況、技術水準もまちまちであり、今後いかに研修内容を整えていくかが課題である。
- 3) 研修用機材は一応整っているが、研修効果を上げるためにAIBD側は機材供与を要請している。
- 4) ENGシステムの普及により、報道・番組制作群と技術群との連携プレーが、これまで以上に求められている。第1回研修コースは、技術部門の管理者のみを対象としたコース設定であったが、次回コースにおいて、制作群の管理者と技術群の管理者の合同研修というタイプで研修を実施すれば、さらに効果的なコースになるであろう。
- 5) 研修用テキスト編纂の必要性

#### (3) 評価活動のフィードバック

上記(1)及び(2)の評価活動の研修コースへのフィードバックについては、2.2「研修計画」の(4)「各年度におけるカリキュラム及び実施計画」の項を参照願いたい。



## 4. 評 価

### 4. 1 研修実施目的

本研修コースは、アジア・太平洋地域においてE N Gに従事している放送技術者を対象にそれら技術者のE N G分野における技術・知識の向上を図ることを目的として実施された。

研修コースは5回実施され、参加国は13ヶ国、参加研修員数は99名であった。本コースの評価を4.2の評価方法により行った結果、4.3以下で述べるように研修員の評価も高く、本コースの実施目的は十分達成されたと言えることが出来る。

### 4. 2 評 価 方 法

本研修コースの研修効果、研修計画の妥当性、研修実施機関の研修指導体制及び研修運営体制、日本側の協力方法等の項目について個々に評価し、その結果を纏めて総合評価を行うために次の評価方法がとられた。

- (1) A I B Dへ派遣されたJ I C A専門家の報告書を分析する。
- (2) 研修コースの終了の都度、そのコースの評価のために実施された、研修員へのアンケート調査の結果を分析する。(添付資料 6参照)
- (3) 昭和58年度に派遣されたJ I C Aの第三国研修管理ミッション報告書記載の評価結果を分析する。
- (4) 本件評価のために実施した、本研修コースの帰国研修員に対するクwestionネア(質問書)への回答内容を分析する。(添付資料 7参照)
- (5) 在マレーシア日本国大使館及びJ I C Aマレーシア事務所から上記項目についてコメントを聴取する。
- (6) 本調査団は上記(1)~(5)の分析・聴取結果等をふまえ、A I B D側との協議の場で総合評価を行う。

### 4. 3 研 修 効 果

帰国研修員より回収のクwestionネアより結論される研修効果は以下のとおり。なお、クwestionネアは58年度から61年度までの4年間の研修員全員(79名)に対し発出され27名より回答を得た。回答者の職種を分類すれば、プロデューサーが6名(22%)、エンジニアが13名(48%)、その他(教官、テレビレポーターなど)が8名(30%)となっており、技術系と番組製作系に大別すれば、それぞれ18名(67%)、9名(33%)となっており、参加者全体の比率(技術系：番組制作系、6：4)に比べるとやや技術系が多くなっている。

- (1) 実際の研修計画と参加者の期待

実際の研修計画が参加前に期待した内容であったかについての質問に対し1名を除き全員(96%)が肯定的な評価をしている。

(2) 研修で得た知識・技術の現在の業務に対する応用

研修において得られた知識・技術が現在の業務にどの程度応用できるものかについての質問に対し、89%が肯定的な評価を行っている。中でも、研修で得たものの全て、或は殆どが応用できるとしたものが60%に及んでいる。

(3) 研修において得られたもの

研修において得られたものについての質問では(複数回答可)、職務に対する責任感及び職務遂行能力の向上をそれぞれ41%のものがあげているほか、プロ意識の向上、将来への期待が高まったこと、他の研修員を通じての国際的な友好が深まったことなども指摘されている。

(4) その他研修に対する研修員からの提言

主なものとしては、研修の内容をさらに発展したものとしてほしいこと、保守・修理の実習を充実させてほしいこと、また、それに関連して、現在の機材が旧式であることから、新しい機材が必要であること(主として、技術系の研修員からの意見)、研修員に対する新たな研修などでフォローアップをしてほしいこと、等が上げられている。また、少数であるが、制作と技術とを分離した研修を求める意見や講師側の語学力に若干の問題ありとする意見もあった。

(5) クエスチョネア未提出の研修員からの意見聴取

R T Mの施設視察の際、研修に参加し、クエスチョネア未提出の研修員3名より意見聴取の機会があったが、結果としては上述の内容と同様であり、全般的に研修が充実した内容で非常に有意義であると述べるとともに、今後に向けての改善点については、機材の更新が望ましいとの意見であった。

#### 4.4 研修計画

研修終了時の研修員による評価、現地実施機関による協議の結果から結論される評価は以下のとおりである。

(1) 目的

大部分の研修員より研修の目的は十分に満足されたとの表明がなされている。若干のものからは、より高いレベルの研修を期待していた旨の意見もあった。

(2) 研修の期間・時期等

研修の期間については研修員よりの評価で適切であるむね指摘されており、また、A I B D側でも、今後の希望として要請してきた、新しい研修のプログラムにおいて同様に6週間を要

請していることからみて適当であるといえる。時期については現在のところ、研修員、実施機関とも特段の問題なしとしている。

(3) カリキュラム・デザイン

研修員による評価では、科目の範囲、レベル、ディスカッション、演習、視察旅行とも適切であり、また講義と実習の時間配分も適当であるとしている。

(4) 割当国

14ヶ国（マレーシアを含む）に対して割り当てられたが、ほとんどの国から万遍無く参加が得られており、割当国は適切であったといえる。なお、割当国対象外の3ヶ国（ブータン、ジンバブエ、ガンビア）からもユネスコによる航空運賃負担による参加者があり、本研修が対象割当国以外にも評価が高かったことを示している。

(5) 定員

参加者数の合計は当初16名とされていたが、実際には初年度を除き20名以上の参加者で研修が行われている。参加国数、主催国に対する割当数などからすると、決められた定員数はおおむね適当と考えられるが、本研修に対する参加希望者が多く、実際には定員を越える人数が参加していること、そのなかで宿舍、実務研修での人数割りなどで特に大きな問題を生じていないことから考えて、定員を若干多めに定めても差し支えなかったと考えられる。

(6) 応募資格

第1回の研修において専門家から研修員のバラツキが大きいとのコメントはあったものの、その後は、特段のコメントはなく研修は順調に進捗しており、応募資格は適当なものであったと考えられる。

#### 4.5 研修実施機関

本コースの研修実施機関としては前述のとおり、アジア・太平洋放送研究所（Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development（AIBD））が実施している。

(1) 研修指導能力

AIBDの研修指導能力は、同研究所開所以来、9,500名の研修員に対して、延べ530分野におよぶ研修を実施しており実績は十分にある組織である。

本コースについて言えば、過去5年間にコースに参加した研修員に対するアンケート及び長・短期専門家の報告等から判断して、ほぼ満足のいけるものであったと思われる。

これは、AIBDのコース開設当初の所長であったR. バラクリシュナン氏以下のスタッフが本コースを最重要視し、日本人専門家へのバックアップを初めとしてカリキュラムの準備、事務職員等の配置、アシスタントの手配等全ての点にわたって積極的に取組んだためであり、その後、所長職を引継いだ、ダトー・アブドラー氏も、これらを継承したためであると思われ

る。従って、研修を運営実行する運営能力においては特段の問題はない。

#### 1) 講師

研修講師については、照明技術、編集実習については、AIBDのスタッフが担当した部分もあるが、5年間にわたり、各年度とも講義の大部分を担当したのは、日本人専門家であり、この分野の技術が高度で現地専門家が育ち難いとは言え、今後、本コースを継続させ、発展させてゆくためには、AIBD独自の専門家の育成が必要である。このためには、日本でAIBDのスタッフを教育するなど、講師の現地化を図るためのカウンターパート研修の早期実現が望ましい。

現在の放送技術は日進月歩で発展を続けており、各国の放送技術者もこれらの最新技術を、吸収し活用することを強く望んでいるので、今後、研修計画が継続実施される場合には、先端分野の技術については、今後継続的に日本から専門家を派遣し研修に当たる必要がある。

#### 2) 教材

教材については、5年間に計4冊の本コース用のマニュアルが完成し好評を得ているが、上記の通り技術進歩が著しく、ハイビジョン、放送衛星、SNG（サテライト・ニュース・ギャザリング）等の技術も必要となってくるので、近い将来改訂が必要となろう。

#### 3) 資機材

実習用資機材については、AIBDの独自保有のものを使用すると共に、IPTARの設備も借用出来る事になっているが、RTMの放送機材の不足時には、IPTAR設備をRTMの番組制作に使用するため、AIBDの研修に支障をきたす場合があった。また、研修用資機材として不足したものの一部については、短期専門家の派遣時に携行機材として持込み、有効に使われた。

AIBD独自保有の研修用機材については、保守状態も良く、有効に使われているが、毎年度の講師及び研修参加者から、機器の陳腐化と、その老朽化について指摘を受け、改善を求められてきた。20名からの参加者を4グループに分けた場合、ENG機材のセット数の絶対数不足とあいまって研修効率の低下を来している。アジア地域の放送分野のレベル向上のため、今後、研修を高度化し継続するには、諸般の制度的制約を整理した上で、ぜひ機材の充実が必要である。

#### 4) 評価方法

各年度とも、研修終了後、コースエバリュエーションを実施して研修成果の把握に努めている。毎年度とも殆どの研修員は、コースは興味深いものであり、かつ得るものが多かったこと、さらに、ENG/EFPP機器の保守や運用について自分達の職能向上が図れたと答えている。

## (2) 研修運営管理能力

全体として研修運営管理体制については、研修員に対するアンケート及びクエスチョネア、専門家の報告、先方関係者との協議の結果から判断して、コース実施上のコーディネーション、事前のインフォメーション、研修旅行、日当及び宿泊費の支給、宿泊の手配とその程度、宿泊施設の清潔さ、交通手段、福利厚生施設等いずれも満足すべきものと思われる。

なお、研修関連施設については、IPTARの施設を借用したり、機器の保守実習の場合にはRTMの放送センターのメンテナンス室を使用しているが、AIBDとIPTAR、RTMの密接な関係を考慮に入れば充分理解出来る事である。

### 1) 受入れ手続き

先方との協議の中でも、また、研修員へのクエスチョネアの中からも、受入れ手続きに関する問題点は何等出てきていない。アジア・太平洋地域の国からマレーシアへ来るということになれば、受入れ側の体制がしっかりしていれば、来訪者側から問題が提起されないのは当然の事とも言える。本コースについては、特に問題はないと言えよう。

### 2) 運営管理

前述の通り、多年の経験と熱意ある研修組織は、研修員にとっては、受入れ易い土壌である。殆どの研修員がアンケートの中で、教育方法やAIBDの対応は満足すべきものであり、また、研修で得られた知識や技術は、彼等の職務において、効果的に使われるだろうと強調している。

更に、今後のカリキュラムの設定方法について、先方関係者との協議の中で、今後も研修計画を続行する場合には、カリキュラムあるいはコースの設定については、プロデューサー等、放送・制作グループと技術者グループとの合同研修の形をより一層取り進め、相互の立場、協力の意義といったものを認識出来る様にすれば、もっと効果的であろうとの意見で一致を見た。

### 3) 生活環境

マレーシア、特に、クアラルンプールは、風光明媚な気候の良い地域であり、気候上の問題は特にない。生活費の点に関しても、マレーシアにおいて生活するには過不足のない日当を研修員に支給しており、特段の支障はないと思われる。

### 4) 予算措置

R/Dに基づき、日本政府から十分な資金手当が成されており、研修運営上の問題は生じていない。

## 4.6 日本の協力

本研修コースに対する日本の協力は、研修実施に必要な経費の負担、専門家派遣、携行機材の

供与であった。4.3以下の評価で明らかなように、研修コースが実施目的を達成することができたのは、これら日本側の協力がAIBD側の努力と有機的に組み合わせられた結果であるといえることができる。

(1) 経費

日本側は、研修員の航空賃、滞在費及び研修費等の経費を負担した。これらは全て、R/Dに基づき手当されたもので研修運営上十分な予算措置であった。

(2) 専門家

本研修コースは、JICA派遣の長期専門家1名がAIBDに継続派遣されているという状況の中で実施することができた。このことにより、研修コースの継続性とコース運営上必要な日本側とAIBD側の十分な意志の疎通が確保されることとなり、研修を効率的に実施する上で効果があった。

また短期専門家も、毎回3名派遣されたが、第三国研修コースに対する日本側の対応としては手厚いものであった。

(3) 機材

AIBDの機材を補完するために、携行機材が供与され、有効に利用された。

## 5. 総合評価

### 5.1 研修計画

4.4において個々の事項については記述したが、総合的に評価しても、本研修の研修計画は高く評価することができる。

研修員自身による評価、現地実施機関による評価によっても、検討されたほとんどの項目において研修計画が適当であるとの評価がなされている。

念のため、コメントがなされているものについてみると、(1)研修のレベルについて、もっと高いものを望む研修員のコメントはあったものの、これは研修計画によるものというよりも、実際にAIBDの所有する機材から生じる物理的な限界から生じるものと考えられること、(2)定員については計画段階では適当であったと考えられるが、実際には研修の人気が高く定員を越えた参加者があったものであるが、特に研修上の問題点は生じておらず、定員の枠についてより柔軟に対処しても差し支えなかったこと、などであり、いずれにしろ、今後研修が実施されることがあれば適切な考慮を行なうことより十分に改善可能なものである。

### 5.2 研修実施

研修実施に係る総合評価は2つのポイントに集約される。即ち高い研修のアレンジメント能力と、講師面におけるAIBDの貢献が必ずしも十分でない点とである。

これまで述べてきたように、AIBDはそもそもアジア・太平洋地域における放送分野の要員養成のための国際機関として設立されており、多くの経験、高い実施能力を有していることから、募集、計画策定、研修運営、研修旅行、宿舎など、研修実施のアレンジメントについては、全般を通じ、高い水準で実施され、研修員自身による評価も高く、特に問題はなかったと言える。

一方、必ずしも十分でないと考えられたことは、研修実施におけるAIBDからの講師の貢献度である。本第三国研修の実施対象となったアジア・太平洋地域において、我が国の技術に対する期待は非常に大きなものがあり、実施機関、研修員からの評価は非常に高いものであったことは前述のとおりである。しかし、このため、実施機関、研修員とも我が国からの協力に多くを期待するあまり、他の第三国研修の例に比較すると、我が国からの専門家に依存する部分が大きかったことは事実であったと言える。

参加する研修員に高い評価を受け、開発途上国のニーズに応える研修を実施することは協力の大前提であることは言うまでもないが、第三国研修には、技術移転において目標とする確固たるスキームがあり、このスキームになじむ方向での改善の努力が図られることが必要である。

本研修は内容的には十分に評価を受け、また、本評価ミッション滞在中にも今後の必要性が強く訴えかけられるなど、真に開発途上国側のニーズに応えられる第三国研修であったと考えら

れるが、更に、今後の研修について検討・実施される際には、この点を十分に改善すべく実施機関であるAIBDとの検討が行なわれる必要があると思料される。

(参考) 本調査団に対し、AIBD側より、今回終了したプログラムに続き、第三国研修スキームにおいて、さらに進んだ放送研修プログラムへの我が国協力の要請があったが、本調査団は上記の評価を踏まえ、AIBD側で改善を要する点、特に、研修におけるAIBDの内部講師の貢献度を増やしていくことが必要である旨指摘した。AIBDは本調査団の指摘に同意した。

### 5.3 日本の協力

AIBD側は、R/Dに要約されているように調査団との協議の席上、4.6で述べたわが方の協力について高く評価したが、5回にわたる研修コースについて、特に本コースの場合回が進むにつれて研修参加国のコース応募時の反応が早く、かつ大きくなっていった点を評価の理由の一つに挙げていたことは印象的であった。

また在マレーシア日本大使館及びJICAマレーシア事務所関係者もそれぞれ本コースの実績を評価するとともに、AIBDにおいてENG分野の第三国研修をわが方が継続することは研修参加国に裨益するところが大きいであろうとのコメントを述べた。

4.1～6における評価及び上記関係機関のコメント等を総合的に判断すれば、本研修コースに対する日本の協力は高く評価することができる。



## 6. 提 言 等

今後AIBDにおいてENG等の研修コースが再開される場合の参考とするために、過去5回の研修コースから得た教訓を提言の形で以下に要約する。

### 6. 1 計 画 策 定

ENGシステムにおいては報道・番組制作群（プロデューサー）と技術群（エンジニア）との連携プレーが特に重要である。本研修コースにおいても2回目以降、両分野の合同研修を行い成果を挙げたが、コースの募集要綱（G. I）には、合同研修の背景にある理念、方法などについて必ずしも明確には記載されていなかったため、参加研修員の一部に戸惑いが見られたようである。

合同研修方式を将来踏襲する場合、G. Iに研修コースが目指すところをより具体的かつはっきりと記載することを提案する。

### 6. 2 実 施 ・ 運 営

- (1) 日本側講師の英語力の一部問題があったことは、研修員へのアンケート調査で指摘されている。AIBD側も本コースに限った問題ではないとしつつも、そのことを否定していない。第三国研修が”短期決戦”であることを考えれば、専門家の語学力の重要性はいくら強調しても強調しすぎることがないほどの問題である。わが方の特段の努力が要請されている。
- (2) AIBDの内部講師の貢献度を高めるために、先方講師の本部におけるカウンターパート研修を提案する。
- (3) AIBDの機材の老朽化が参加研修員、講師双方から指摘されている。ENGシステムの技術的発展に遅れをとらない研修を実施するために、わが方からの機材供与を検討することを提案する。

### 6. 3 日 本 の 協 力

AIBD側によれば、アジア・太平洋地域において放送事業に従事している人は約20万人、その半数の約10万人が放送機器の運用と保守（Operation and Maintenance）関係者であるという。放送分野の技術革新が進む中で、わが国が同地域で放送分野の技術協力に於いて果すべき役割は、今後益々大きくなっていくことが予測される。

このような状況のなかでAIBD側も第三国研修の継続を強く望んでおり、わが方としても上記6. 1及び6. 2で述べた点等を踏えつつ、今後新たな研修コースの設定を検討すべきであろう。



## 添 付 資 料

1. ミニッツ (1988年4月7日付) .....	57
2. 1987年度の研修実績及び 1988年度の研修実施スケジュール .....	70
3. A I B Dのスタッフ・リスト (1986年) .....	81
4. 当初のR/D (1983年8月19日付) .....	85
5. G. I. (1988年コース) .....	99
6. コース終了時のアンケート調査票 (例) .....	103
7. 帰国研修員に対するアンケート調査票 (例) ...	112

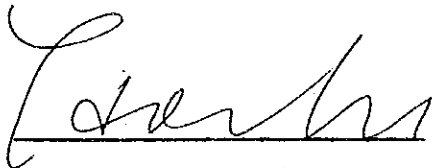


MINUTES OF MEETING  
BETWEEN THE  
JAPANESE EVALUATION TEAM  
AND  
ASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENT  
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

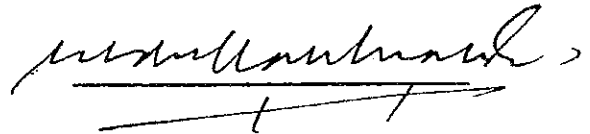
1. The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr Tatsuo HOSHI visited Malaysia from April 3 to April 7, 1988 for the purpose of evaluating the training courses in the field of Operations and Maintenance of Electronic News Gathering (hereinafter referred to as "ENG") and Electronic Field Production (hereinafter referred to as "EFP") at the Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development (hereinafter referred to as "AIBD") under the Third Country Training Programme of JICA.
2. During its stay in Malaysia, the Team had a series of meetings with AIBD with respect to the progress and achievement of the above-mentioned training courses (hereinafter referred to as "the Course") and the outline is summarised in the summary report attached as APPENDIX II.
3. As a result of the meetings, both parties shared the view that the Courses have contributed to the development of techniques and knowledge on the operations and maintenance of ENG/EFP in the Asian and Pacific countries, and agreed that the training programme as conceived and implemented during the five-year period, FY 1983 to 1987, has been brought to a successful completion.
4. AIBD expressed its intention to establish advanced broadcasting training on the third country training programme following completion of the current course and requested further Japanese cooperation in this regard.

5. The team stated that AIBD should make a formal request through the Embassy of Japan in Kuala Lumpur, although it would also convey the request to the Government of Japan. The team suggested and AIBD agreed that there are some areas of management and operation that should be improved in connection with the establishment of the new training programme, especially in the area of provision of training experts, whereby the quantum of participation of AIBD training experts would increase gradually.
6. A list of attendants at the meetings is attached as APPENDIX I.

Kuala Lumpur, April 7, 1988



Mr Tatsuo HOSHI  
Head of the Japanese  
Evaluation Team, JICA



Dato ABDULLAH Mohamad  
Director, AIBD

LIST OF ATTENDANTS

JAPANESE SIDE

AIBD SIDE

1. Evaluation Team

Mr Tatsuo HOSHI  
Head  
First Training Division  
Training Affairs Department  
JICA

Dato ABDULLAH Mohamad  
Director

Mr Masahiko METOKI  
Section Chief  
International Cooperation  
Division  
Communications Policy Bureau  
Ministry of Posts and  
Telecommunications

Mr Brajesh BHATIA  
Deputy Director/  
Regional Training  
Coordinator

Mr Hiroaki OTSUKA  
Senior Engineer  
Regional Technical  
Administration Division  
Engineering Department  
NHK (Japan Broadcasting  
Corporation)

Mr John NETTLETON  
General Programme  
Coordinator

Mr Kiichiro KUNO  
Acting Head  
Administration Division  
Training Affairs Department  
JICA

Ms Margaret DASS  
Executive Officer  
(Finance)

2. Embassy of Japan

Mr Shigeshi MIMURA  
First Secretary

Mr Genryo MATAYOSHI  
Engineering Expert  
JICA

3. JICA Malaysia Office

Mr Kenichi IMAI

Mr Katsumi SHIRAIISHI  
Television Production  
Expert, JICA

SUMMARY REPORTI. Background

1. In recent years, ENG/EFP equipment has been used extensively in the Asia-Pacific region. However, in the area of maintenance and operation of those equipment, there are some difficulties which could be solved only by experienced engineers. On the other hand, the need to catch up with recent new high-technology in broadcasting engineering also continues to increase each year in the region. Under these circumstances, the importance of training for operation and maintenance of ENG/EFP equipment, including imparting information on new high-technology in broadcasting engineering, becomes significant, and this course has been implemented at AIBD.
2. The Course has been conducted for the past five years since its inception upon once-a-year basis by AIBD and supported by the Government of Japan under its technical cooperation scheme.
3. The purpose of the Course is to provide an opportunity of refreshing and updating relevant techniques and knowledge for engineers or technical officers engaged in the field of ENG/EFP in Asia-Pacific Region.
4. The curriculum structure of the five year plan has been designed mainly as following items along with the objectives of this course:
  - a. ENG/EFP camera principles and practice.
  - b. VTR principles and practice.
  - c. ENG/EFP editing theory and practice.
  - d. Sound dubbing and post production.
  - e. ENG/EFP programme planning.
  - f. ENG/EFP scenario construction and camera work.

The duration of training was approximately six weeks in each year. Introduction of advanced broadcasting technology and related world news exchange information were also included in the curriculum in addition to the above mentioned training items, in order that participants could instruct for their staff in their broadcasting stations after returning to their countries.

Some instructors from AIBD were in charge of a part of the curriculum and Japanese experts dispatched by JICA covered major parts of it.



II. Number of participants accepted

During five years, ninety nine (99) participants were accepted. The number of participating countries was thirteen (13), including Malaysia.  
(Detail is attached as ANNEX I)

III. The assessment of the achievement

1. By the ex-participants

Questionnaires for the Course were sent by JICA to seventy nine (79) ex-participants (FY 1983 - 1986) and completed forms were returned by twenty seven (27) ex-participants. Undermentioned are the results of the category-wise analysis of the answers of the questionnaires.

a. Employment/Work Experience

The breakdown according to employment of 27 ex-participants is as follows:

	Number	Ratio
Producer	6	22%
Engineer	13	48%
Others	8	30%
Total	27	100%

(Others consist of TV reporters, instructors, etc.)

b. Outcome of the Training

Almost all the ex-participants commented affirmatively that the training programme corresponded to their previous expectations and that they could apply the knowledge/skills, etc. acquired during the Course in their present job. Many participants expressed that benefits which they obtained from the Course are Responsibility, Contents of Work, and Professional Recognition.

c. Others

Some ex-participants suggested that the training programme should be advanced for the efficiency of the Course. Especially, necessity of advancement in the field of maintenance was suggested by Engineers.

2. By the Participants at the end of each Course

Questionnaires for the Course were filled up at the end of each course. The results of the category-wise analysis of the answers of the questionnaires are as follows:

a. Objectives

The majority of the participants commented that the objectives of the Course were adequately fulfilled.

A few participants commented that their expectation was higher level.

b. Curriculum design

The majority of the participants expressed that the coverage of the subject, level, discussion, exercise, observation, intensity and duration of the course were appropriate and the time allocation for the lecture and practice was adequate.

c. Course conduct

Most participants commented that the teaching and instruction methods were satisfactory. They stressed that the techniques and knowledge which have been obtained in the course would be effectively utilized in their respective duties.

d. Administration and Management

Most participants commented that all the arrangements including the administration and management of the Course, course information, observation trips, allowance and transportation were satisfactory.

e. Training outcomes

The majority of the participants answered that their expectations to the attainment of techniques and knowledge were fully met.

f. Others

Several participants commented that it would have been even better if the course was divided into two parts, one for the engineers and the other for the producers.

They also commented that most equipment, for example, ENG cameras, VTRs etc, were old-fashioned, and that they should be renewed to carry out the latest training sufficiently.

#### IV. Support of the Government of Japan

During five years, the Government of Japan made available three (3) experts' services and provision of equipment for each course.

The Japanese experts covered major parts of the lectures and practicals of the Course.

The equipment provided by the Government of Japan were 33 items listed in Annex II.

The fund necessary for the invitation of participants from the neighbouring countries and training expenses were provided by JICA and the total cost of them sums up to four hundred and forty one thousand (441,000) Malaysian dollars.

#### V. Administration and management of the Course

##### 1. Teaching staff

Teaching staff are shown in Annex III.

##### 2. Qualifications of participants

Participants were engineers, technical officers or programme producers in the field of TV programme production and maintenance.

##### 3. Training circumstances

###### a. Rooms and facilities

Lectures and practical training were carried out in AIBD which is located in IPTAR (Institut Penyiaran Tun Abdul Razak).

###### b. Equipment for practical training

Most of the equipment used in the Course were provided by AIBD, and several special equipment, for example, Time Base Corrector, Oscilloscope etc., were provided by JICA.

Broadcasting equipment used in the Course were as follows:

- 1) TV studios and related equipment (3 colour camers, 3 VTRs etc.)
- 2) Radio studios and related equipment, (2 Tape recorders etc.)
- 3) ENG cameras.
- 4) ENG VTRs.
- 5) Waveform monitors, Vector scopes and Oscilloscopes.
- 6) Editor controllers.
- 7) Colour monitors and other related equipment.

c. Textbooks

The ENG Training Manuals Vol. I and II were written by Japanese experts in 1984 for the first Course and Vol. III and IV were later edited by their Japanese successors. "NTSC, PAL and SECAM systems" and other textbooks of NHK Central Training Institute were also used in the Course.

4. Procedure of application and nomination

The course information along with the invitation letters are sent to the country offices of the UNDP, with copies to (i) Heads of Broadcasting Organizations; (ii) UNESCO National Commissions; and (iii) Heads of national training centres, about four to six months in advance.

The filled-in application forms by prospective candidates, endorsed by the heads of broadcasting organizations, are submitted to AIBD through the country offices of the UNDP before the closing date of applications (which is usually six to seven weeks before the actual beginning of the course).

The acceptance letters are then sent to the successful candidates directly with copies to the country offices of the UNDP, Heads of Broadcasting Organizations; Heads of national training centres about four to six weeks before the start of the course.

5. Accommodation

Participants stayed in the hostel within the IPTAR/AIBD premises.

## ANNEX I

## NUMBER OF RESOURCE PERSONS AND PARTICIPANTS (FROM FY 1983 to FY 1987)

		1983	1984	1985	1986	1987	TOTAL
Resource Persons	Japan	4	5	5	5	5	24
	Local	5	0	1	1	2	9
Participants	Producer	1	12	9	8	12	42
	Engineer	14	12	12	13	10	61
Country Participated	Bangladesh	1	2	2	2	3	10
	Brunei	0	2	2	0	2	6
	China	0	2	2	1	2	7
	India	1	2	2	3	1	9
	Indonesia	1	0	0	2	0	3
	Iran	1	2	0	0	0	3
	Korea	0	2	0	2	1	5
	Malaysia	7	4	6	5	2	24
	The Philippines	1	2	0	0	1*	4
	Pakistan	1	2	2	2	2	9
	Singapore	0	2	0	0	1	3
	Sri Lanka	1	0	2	2	3	8
Thailand	0	2	2	2	2	8	
Total (by JICA)		14	24	20	21	20	99
(Funded by Unesco)	Bhutan	1	0	0	0	0	1
	Zimbabwe	0	0	1	0	0	1
	Gambia	0	0	0	0	2	2
Total		1	0	1	0	2	4
Total Sum		15	24	21	21	22	103

\* Unfinished 1

42 producers and 61 engineers from 16 countries participated in the Courses. The number of Resource Persons from Japan includes long-term and short-term experts dispatched to AIBD by JICA and Japanese staff in ABU.

## SUPPORT OF THE GOVERNMENT OF JAPAN

## 1. Dispatch of short-term Experts

Japanese FY	Name of Experts	Number of Experts	Expenses
			(thousand yen)
83	Mr Shuichi Miyauchi Mr Satoshi Shimizu Mr Hirokazu Nishiyama	3	3,094
84	Mr Kyoichi Tsuchikura Mr Kunimichi Nakajima Mr Mitsuaki Shinoda	3	3,860
85	Mr Yasuaki Ito Mr Toshiaki Watanabe Mr Kaoru Fukuoka	3	3,944
86	Mr Takao Kiyohara Mr Takeo Terada Mr Masayuki Fukuda	3	3,926
87	Mr Hiroyasu Iwanami Mr Toshiaki Watanabe Mr Yasushi Nakamura	3	3,696
Total		15	18,520

## 2. Expenses for Invitation of Participants and Training

Japanese Fiscal Year	83	84	85	86	87	Total
Amount (Malaysian Dollars)	45,359	100,800	111,825	92,619	90,255	440,858

### 3. EQUIPMENT PROVIDED BY JICA

<u>Model Name</u>	<u>Equipment Name</u>	<u>Quantity</u>	<u>Year</u>
1. ITE Non Colour	Transparent Chart	1	1988
2. EIA Transparent	Test Chart	1	"
3. SL-800ME Sony	Multi-VCR B-Max	1	"
4. BVT-810P	Time Base Corrector	1	1987
5. J-6001-840-A	Drum Ecc Guage	1	"
6. J-6001-830-A	Drum Eccentricity Guage	1	"
7. J-6001-820-A	Drum Eccentricity Guage	1	"
8. J-6001-930-A	Drum Eccentricity Guage	1	"
9. A-6709-102-A	Head Drum Ass'y RV-12	1	"
10. CCV-31F	Standard Color Viewer	1	"
11. VA-3,3A	Power Transformer	1	"
12. ITE-HI-DEF 1	Test Chart Color Viewer	1	"
13. 0.5MHz--6MHz	Test Chart K	1	"
14. 11STAGE-ITE-NHK	Grey Scale	1	"
15. 528 PAL SONY	Waveform Monitor	1	1986
16. BK-112 SONY	Timecode Generator	2	"
17. BK-102	Interface Kit For BVU-50	2	"
18. MZ-808 Keyboard with display	Sharp Micro Computer and accessories	1	1982
MZ-8BK Expansion I/O Port		1	"
MZ-80PUB Printer		1	"
MZ-8BP51 I/O Card for above		1	"
MZ-88PAC cable		1	"
Auto Voltage Regulator		1	"

19.	C60	Programming Cassette Tape	3	1982
20.	MZ-80BF	Floppy Disk with drivers	1	"
	MZ-8BFI	card for above cable	1	"
	MZ-8BFC		1	"
21.	BVT - 800 PS (P)	Digital Time Base Corrector	1	1986
22.	KX - 14 CPI	Colour TV Monitor	1	"
23.	P5 - 30	8 mm Tapes	9	"
	P5 - 60		8	"
	P5 - 90		7	"
24.	CCD - V8AF/EK	8 mm Video Camcorder	1	"
25.	RM - E100V	Remote Commander	1	"
26.	NP - 22	Battery Pack	5	"
27.	AC - V8E	AC Power Adaptor	1	"
28.	BE - V8	Videocassette Eraser	1	"
29.	IC - V805	Carrying Case	1	"
30.	ECM - Z200	Microphone	1	"
31.	NV - 630	National Video	1	"
32.	AL - 2100	National CTV	1	"
33.	DXC - 3000P	CCD Colour Camera	1	1987



## TEACHING STAFF

ANNEX III

Japanese		Regional			
Japanese F Y	Name	Remarks	Name	Content	Remarks
1983	Mr Eiichi Yaguchi Mr Shuichi Miyauchi Mr Saboshi Shimizu Mr Hirokazu Nishiyama	Long-term Expert * Short-term Expert -ditto- -ditto-	Mr Durairajah Mr Koh Kwa Khoo  Mr Goon Swee Leng Mr Tan Ewe Seng Mr Chanan Singh	Course Coordinator CRF Monitor Theory/ Trouble Shooting (assistant) - ditto - Editing Practice - ditto -	AIBD IPTAR-RTM  -ditto- -ditto- -ditto-
1984	Mr Eiichi Yaguchi Mr Kyoichi Tsuchikura Mr Mitsuaki Shinoda Mr Kunimichi Nakajima Mr Tetsuo Sagara	Long term expert Short term expert -ditto- -ditto- ABU expert	None	None	
1985	Mr Genryo Matsuyoshi Mr Kaoru Fukuoka Mr Toshiaki Watanabe Mr Yasuaki Ito Mr Tetsuo Sagara	Long-term Expert Short term expert -ditto- -ditto- ABU expert	Mr Tan Ewe Seng	Editing Practice	AIBD
1986	Mr Genryo Matsuyoshi Mr Takao Kiyohara Mr Masayuki Fukuda Mr Takeo Terada Mr Tetsuo Sagara	Long term expert Short term expert -ditto- -ditto- ABU Expert	Mr Abdul Razak	Lighting Techniques	IPTAR
1987	Mr Genryo Matsuyoshi Mr Hiroyasu Iwanami Mr Toshiaki Watanabe Mr Yasushi Nakamura Mr Hiroshi Moriguchi	Long term expert Short term expert -ditto- -ditto- ABU expert	Mr Tan Ewe Seng Mr Chanan Singh	Lighting Techniques Circuitry of Camera	AIBD IPTAR

\* Long-term experts and short-term experts were dispatched by JICA

FOR INFORMATION ONLY

Rev 7/20 November 1987

PLEASE DO NOT SEND NOMINATIONS UNTIL  
OFFICIAL INVITATIONS ARE RECEIVEDASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENTCOURSE SCHEDULE FOR 1987

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
<u>REGIONAL</u>				
1.	Development and Production of Training Materials (For senior broadcasting personnel involved in training of television production staff. Aims at producing video and AV materials for training purposes and develop training material production capability at the level of national training centres)	16 Feb - 20 Mar	5 weeks	Kuala Lumpur
2.	Operation and Maintenance of ENG/EFP Equipment (For senior television producers and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills in the operation and maintenance of ENG/EFP Equipment)	24 Feb - 3 Apr	6 weeks	Kuala Lumpur
3.	Population and Development Communication (Radio) (For persons dealing with population/development programmes. Aims at promoting the concept of integration of population matters with development programmes)	23 Mar - 16 Apr	4 weeks	Colombo
4.	Development of Libraries and Resource Centres in Broadcasting Organizations (For librarians working in broadcasting organisations. Aims at improving library and reference services to facilitate programme production at broadcasting organisations)	6 Apr - 24 Apr	3 weeks	Kuala Lumpur
5.	Television Measurement Techniques (For television engineers. Aims at upgrading knowledge on subjects dealing with signal/transmitter measurements)	6 Apr - 24 Apr	3 weeks	Kuala Lumpur
6.	Training Methodology (For trainers at national training centres, providing them with standardised techniques in formal training)	6 Apr - 30 Apr	4 weeks	Kuala Lumpur
7.	Management of Population Communication Programmes (For middle/senior level communication practitioners involved in implementing population/development communication programmes. Aims at providing the necessary knowledge on the management aspects of communication programmes)	4 May - 22 May	3 weeks	Kuala Lumpur
8.	News Reporting, Production and Presentation (Radio) (For radio journalists dealing with the writing and presentation of news with emphasis on development issues)	20 Jul - 7 Aug	3 weeks	Kuala Lumpur

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
9.	Television News Exchange (For national news teams, to standardise the overall quality and structure of news gathering/reporting to facilitate international exchange of television news materials)	3 Aug - 28 Aug	4 weeks	Kuala Lumpur
10.	Asiavision News Exchange Coordinators Workshop (For the national coordinators responsible for television news exchange project)	10 Aug - 14 Aug	1 week	Kuala Lumpur
11.	Scripting and Production of Current Affairs Programmes (Radio) (For broadcasting personnel involved in the scripting and production of current affairs programmes. Aims at establishing basic concepts and new techniques in the production of quality current affairs programmes)	10 Aug - 28 Aug	3 weeks	Kuala Lumpur
12.	Population and Development Communication (TV/EFP/FILM) (For persons dealing with population/development programmes. Aims at promoting the concept of integration of population matters with development programmes)	14 Sep - 16 Oct	5 weeks	Colombo
13.	Audience Research and Programme Evaluation (For broadcasting personnel involved in research activities. Aims at providing basic knowledge enabling them to undertake research on a scientific basis to improve the quality of programmes)	14 Sep - 16 Oct	5 weeks	Colombo
14.	Training of Trainers for Television News Exchange (For the trainers/staff who will be involved at the national level in training news teams for news exchange purposes)	21 Sep - 9 Oct	3 weeks	Kuala Lumpur
15.	Television News Exchange (For national news teams; to standardise the overall quality and structure of news gathering/reporting to facilitate international exchange of television news materials)	28 Sep - 23 Oct	4 weeks	Kuala Lumpur
16.	Acoustics Design for Broadcasting Studios (For radio/television engineers involved in planning and development. An introduction to the application of acoustic principles in the design and construction of studios and sound controlled areas in broadcasting including up to date formulary)	9 Nov - 27 Nov	3 weeks	Kuala Lumpur
17.	Seminar on Broadcasting and the Law (For senior management staff and legal officers responsible for broadcasting affairs, to review and update knowledge and practice.)	11 Nov - 19 Nov	1 week	Kuala Lumpur
18.	Maintenance of U-Matic Video Tape Recorders (For senior engineers responsible for maintenance of U-Matic VTRs. Aims at upgrading their skills in repairs and routine maintenance of such equipment)	7 Dec - 18 Dec	2 weeks	Kuala Lumpur

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
<u>SUB-REGIONAL</u>				
1.	Broadcasting Management (Radio) (For senior producers/engineers in broadcasting organisations in the Pacific. Aims at familiarising them with management techniques especially at middle management level)	16 Feb - 27 Feb	2 weeks	Apia
2.	Planning and Production of Documentary Programmes (Television) (For producers; selection of ideas, scripting and directing video documentaries. For editors and sound engineers working on all aspects of video post production including time-code editing, multi track mixing and sonarisation)	23 Mar - 17 Apr	4 weeks	Kuala Lumpur
3.	Operation and Maintenance of Radio Studios (For senior radio producers and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills on operation and maintenance of radio studios)	18 May - 12 Jun	4 weeks	Suva/Nuku'alofa
4.	Digital Equipment in Broadcasting: Module I -- Wired Logic (For television maintenance engineers, especially those involved in training maintenance staff. Aims at interpreting diagrams and data, finding faults and repairing digital broadcasting equipment)	22 Jun - 17 Jul	4 weeks	Singapore
5.	Planning and Production of Radio Programmes for Women's Development (For radio producers in charge of planning and production of radio programmes for women's development. Aims at examining various formats and content structure for such programmes and increasing their efficacy, especially in highlighting the role of women in development)	6 Jul - 24 Jul	3 weeks	Colombo
6.	Digital Equipment in Broadcasting: Module I -- Wired Logic (For television maintenance engineers, especially those involved in training maintenance staff. Aims at interpreting diagrams and data, finding faults and repairing digital broadcasting equipment)	11 Jul - 6 Aug	4 weeks	Haripur
7.	Operation and Maintenance of Radio Transmitters (For senior radio producers and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills on operation and maintenance of radio transmitters)	3 Aug - 28 Aug	4 weeks	Port Moresby

IN-COUNTRY

1.	Training Methodology	10 Jan - 5 Feb	4 weeks	Islamabad
2.	Lighting for Colour Television	28 Feb - 26 Mar	4 weeks	Islamabad
3.	Video Camera Operation for ETV	9 Mar - 3 Apr	4 weeks	Delhi
4.	Basic Television Production	30 Mar - 30 Apr	5 weeks	Hanoi

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
5.	Lighting for Colour Television	6 Apr - 17 Apr	2 weeks	Ahmedabad
6.	Seminar on Children's Television Programmes	13 Apr - 17 Apr	1 week	Seoul
7.	Educational Television Production	20 Apr - 29 May	6 weeks	Pune
8.	Workshop on Evaluation of Public Service Television Spots	8 Jun - 12 Jun	1 week	Kuala Lumpur
9.	Video Post Production Techniques	8 Jun - 19 Jun	2 weeks	Haadyaf
10.	Lighting for Colour Television	15 Jun - 3 Jul	3 weeks	Trivandrum
11.	Staging and Design for Television	15 Jun - 3 Jul	3 weeks	Trivandrum
12.	Make-up for Television	22 Jun - 3 Jul	2 weeks	Trivandrum
13.	Interviewing Techniques for Television	22 Jun - 10 Jul	3 weeks	Pune
14.	Lighting for Colour Television	20 Jul - 7 Aug	3 weeks	Haadyaf
15.	Television OB Planning	17 Aug - 28 Aug	2 weeks	Bangkok
16.	Lighting for Colour Television	17 Aug - 3 Sep	3 weeks	Hanoi
17.	Operation and Maintenance of VHF Television Transmitters	17 Aug - 11 Sep	4 weeks	Kuala Lumpur
18.	Electronic Special Effects for Television	19 Aug - 28 Aug	2 weeks	Delhi
19.	Workshop on Microwave Technology in Broadcasting	19 Oct - 30 Oct	2 weeks	Yogyakarta
20.	Video Camera Operation for ETV	2 Nov - 28 Nov	4 weeks	Hyderabad
21.	Educational Television Production	9 Nov - 23 Dec	7 weeks	Hyderabad

#### MEETINGS AND ALLIED ACTIVITIES

1.	Production of Media Training Kit for Women's Development	1 Jun - 26 Jun	4 weeks	Kuala Lumpur
2.	Preparation of Manual on Broadcasting and the Law	7 Apr - 6 Jun	9 weeks	Kuala Lumpur
3.	Governing Council and Allied Meetings	8 Jun - 13 Jun	1 week	Kuala Lumpur

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
4.	CIDA/RIDC/AIBD Project Management Board Meeting	15 Jun - 16 Jun	2 days	Kuala Lumpur
5.	Seminar on New Trends in Broadcast Programming and Technology and their Implications for Training	27 Aug - 3 Sep	1 week	Sydney
6.	CIDA/RIDC/AIBD Project Advisory Committee Meeting	30 Nov - 3 Dec	4 days	Kuala Lumpur
7.	Unesco/ABU/AIBD Seminar on the use of Broadcast Equipment in the Asia-Pacific Region	15 Dec - 18 Dec	4 days	Kuala Lumpur
8.	Study Visit - Burma Drug Education Project	28 Dec - 2 Jan	5 days	Kuala Lumpur

For further information, please write to:

The Director  
Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development  
P. O. Box 1137, Pantai  
59700 KUALA LUMPUR, Malaysia

Cable: UNESBROAD, Kuala Lumpur  
Telex: MA 30083 APBRO  
Phone: 2744555/2743719/2744618/2745517

FOR INFORMATION ONLYPLEASE DO NOT SEND NOMINATIONS UNTIL  
OFFICIAL INVITATIONS ARE RECEIVEDASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENTCOURSE SCHEDULE FOR 1988

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
<u>REGIONAL</u>				
1.	Operation and Maintenance of ENG/EFP Equipment (For senior television producers and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills in the operation and maintenance of ENG/EFP Equipment)	11 Jan - 16 Feb	6 weeks	Kuala Lumpur
2.	Television News Exchange (For national news teams; to standardise the overall quality and structure of news gathering/reporting to facilitate international exchange of television news materials)	22 Feb - 18 Mar	4 weeks	Kuala Lumpur
3.	Population and Development Communication (Radio) (For persons dealing with population/development programmes. Aims at promoting the concept of integration of population matters with development programmes)	29 Feb - 25 Mar	4 weeks	Colombo
4.	Television News Exchange (For national news teams; to standardise the overall quality and structure of news gathering/reporting to facilitate international exchange of television news materials)	4 Apr - 29 Apr	4 weeks	Kuala Lumpur
5.	Population Communication for Women Professionals (For women professionals working in national population communication programmes. Aims at improving their professional and managerial skills enabling them to undertake supervisory duties/responsibilities)	25 Apr - 6 May	2 weeks	Kuala Lumpur
6.	Management of Population Communication Programmes (For middle/senior level communication practitioners involved in implementing population/development communication programmes. Aims at providing the necessary knowledge on the management aspects of communication programmes)	30 May - 17 Jun	3 weeks	Kuala Lumpur
7.	Development of Libraries and Resource Centres in Broadcasting Organizations (For librarians working in broadcasting organisations. Aims at improving library and reference services to facilitate programme production at broadcasting organisations)	4 Jul - 22 Jul	3 weeks	Kuala Lumpur

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
8.	Population and Development Communication (TV/EFP/FILM) (For persons dealing with population/development programmes. Aims at promoting the concept of integration of population matters with development programmes)	20 Aug - 22 Sep	5 weeks	Islamabad
9.	Audience Research and Programme Evaluation (For broadcasting personnel involved in research activities. Aims at providing basic knowledge enabling them to undertake research on a scientific basis to improve the quality of programmes)	20 Aug - 22 Sep	5 weeks	Islamabad
10.	Microprocessor and Digital Equipment in Broadcasting: Module II (For television maintenance engineers, who have successfully completed Module I in the series and have been recommended for further training. Aims at completing the AIBD syllabus for microprocessor and digital equipment)	10 Oct - 11 Nov	5 weeks	Singapore
11.	Application of New Technologies in Audio Mixing (This is an introduction to the use of modern sound recording and mixing equipment in multi-track recording and mixing of sound. It is applicable to radio, television and film production as well)	17 Oct - 29 Oct	2 weeks	Kuala Lumpur
12.	Operation and Maintenance of 1 inch Type VTRs and CCD Cameras (For television personnel responsible for maintaining Type C 1" VTRs)	14 Nov - 26 Nov	2 weeks	Kuala Lumpur
13.	Training Methodology (For trainers at national training centres, providing them with standardised techniques in formal training)	14 Nov - 9 Dec	4 weeks	Kuala Lumpur
14.	Production Design and Special Effects for Television Programmes (For designers/art directors involved in television programme production, emphasis on the design and creation of special effects for television programmes)	12 Dec - 24 Dec	2 weeks	Kuala Lumpur
15.	Workshop - Use of Electronic Media in relation to AIDS Information (For both radio and television production staff - an exchange of ideas with medical/social specialists in relation to the prevention and control of AIDS)	TBD	2 weeks	Kuala Lumpur



No.	Activity	Dates	Duration	Venue
<u>SUB-REGIONAL</u>				
1.	Television News and Current Affairs/Paint Box (Aims at introducing the paint box system for news graphics)	25 Apr - 13 May	3 weeks	Colombo
2.	Development and Production of Training Materials (For senior broadcasting personnel involved in training of television production staff. Aims at producing video and AV materials for training purposes and develop training material production capability at the level of national training centres)	25 Apr - 27 May	5 weeks	Pune
3.	Educational Radio (For experienced radio producers and trained teachers; an integrated course which will deal with writing and producing curriculum based radio programmes, and non-formal educational material)	16 May - 10 Jun	4 weeks	Suva/Apia
4.	Planning and Production of Public Service Programmes (Radio) (For radio programme producers. Aims at analysing and producing short public information/motivation programmes)	23 May - 10 Jun	3 weeks	Kuala Lumpur
5.	Planning and Production of Public Service Programmes (Television) (For television programme producers. Aims at analysing and producing short public information/motivation programmes)	6 Jun - 1 Jul	4 weeks	Kuala Lumpur
6.	Production and Presentation of News (Radio) Aims at writing and presentation of news and emphasis on English as second language)	6 Jun - 17 Jun	2 weeks	Colombo
7.	Training of Trainers for Television Lighting (For training of experienced television lighting personnel as trainers)	13 Jun - 24 Jun	2 weeks	Colombo
8.	Training of Radio News Trainers (For training of radio news trainers)	26 Jul - 5 Aug	2 weeks	Kuala Lumpur
9.	Training of Television Production Trainers (For training of television programme producers as trainers)	16 Aug - 26 Aug	2 weeks	Kuala Lumpur
10.	Operation and Maintenance of Radio Transmitters (For senior radio producers and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills on operation and maintenance of radio studios)	29 Aug - 23 Sep	4 weeks	Port Moresby

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
11.	Operation and Maintenance of Radio Studios (For senior radio technicians and engineers. Aims at providing up-to-date knowledge and skills on operation and maintenance of radio transmitters)	3 Oct - 28 Oct	4 weeks	Apia
12.	Microprocessor and Digital Equipment in Broadcasting: Module I (For television maintenance engineers, especially those involved in training maintenance staff. Aims at interpreting diagrams and data, finding faults and repairing digital broadcasting equipment)	14 Nov - 16 Dec	5 weeks	Delhi
13.	Writing and Directing of Documentary Film Programmes (To enable directors and writers to conceive the total production in filmic prose form and translate into picture and sound selected formats of documentary film/television programmes)	TBD	5 weeks	Kuala Lumpur

IN-COUNTRY

1.	Training Methodology	11 Jan - 5 Feb	4 weeks	Delhi
2.	Lighting for Colour Television	14 Mar - 1 Apr	3 weeks	Bangalore
3.	Training of Radio Production Trainers	4 Apr - 14 Apr	2 weeks	Hanoi
4.	Population and Development Communication (Radio)	9 Apr - 27 Apr	3 weeks	Islamabad
5.	Training of Trainers	18 Apr - 29 Apr	2 weeks	Kuala Lumpur
6.	News Presentation (Radio)	30 Apr - 11 May	2 weeks	Islamabad
7.	Audio Recording - Balancing and Sweetening	6 Jun - 24 Jun	3 weeks	Kuala Lumpur
8.	Video Programme Editing for ETV	6 Jun - 1 Jul	4 weeks	Delhi
9.	Lighting for Colour Television	27 Jun - 15 Jul	3 weeks	Colombo
10.	TV Studio Directing Techniques	27 Jun - 15 Jul	3 weeks	Colombo
11.	Broadcasting Management (Radio)	4 Jul - 22 Jul	3 weeks	Colombo
12.	Radio Studio Operations and Maintenance	5 Sep - 30 Sep	4 weeks	Port Moresby

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
13.	Video Camera Operation and Sound Recording	26 Sep - 21 Oct	4 weeks	Delhi
14.	Educational Television Production	24 Oct - 2 Dec	6 weeks	Delhi
15.	Population and Development Communication (Radio)	Nov	3 weeks	Cantho
16.	Studio Audio Operations (Radio)	TBD	4 weeks	Maldives
17.	Radio Programme Production	TBD	4 weeks	Vientiane
18.	Television Measurement Techniques	TBD	2 weeks	Yogyakarta
19.	Television Measurement Techniques	TBD	2 weeks	Delhi
20.	Microprocessor and Digital Equipment in Broadcasting: Module II	TBD	5 weeks	Hanoi
21.	Facing the Camera	TBD	2 weeks	Kuala Lumpur

#### MEETINGS AND ALLIED ACTIVITIES

1.	Women and Media Information Exchange in the Asia-Pacific Region	29 Feb - 4 Mar	1 week	Kuala Lumpur
2.	Production of Media Training Kit for Women's Development	3 May - 28 May	3 weeks	Kuala Lumpur
3.	ABU/AIBD Seminar on HDTV	9 Jun - 12 Jun	1 week	Kuala Lumpur
4.	Governing Council and Allied Meetings	20 Jun - 25 Jun	1 week	Jakarta
5.	CIDA/RIDC/AIBD Project Management Board Meeting	27 Jun - 28 Jun	2 days	Jakarta
6.	Workshop on Production of prototype materials for multi-grade teaching	26 Sep - 14 Oct	3 weeks	Kuala Lumpur

No.	Activity	Dates	Duration	Venue
7.	Unesco Workshop on Development of Slide/Tape and Video Cassette Programmes on Population Education	18 Oct - 2 Nov	3 weeks	Kuala Lumpur
8.	Seminar on Development Broadcasting: New Dimensions and Approaches (Radio)	14 Nov - 19 Nov	1 week	Papua New Guinea

For further information, please write to:

The Director  
 Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development  
 P. O. Box 1137, Pantai  
 59700 KUALA LUMPUR, Malaysia

Cable: UNESBROAD, Kuala Lumpur  
 Telex: MA 30083 APBRO  
 Phone: 2744555/2743719/2744618/2745517

AIBD STAFF LIST

No	Name/Position	Area of Work	Nationality	Funded by
<u>PROFESSIONAL</u>				
1.	Mr R Balakrishnan Director	Resource Management Overall Administration, Financial Control and Staff Recruitment	Malaysian	CFTC/AIBD
2.	Mr Brajesh Bhatia Deputy Director/ Regional Training Coordinator	<u>Management</u> : Finance and Administration; Project Development. <u>Direction/Coordination</u> : Regional Training Programme <u>Training</u> : Applications of Broadcasting; Population Communication; and Research	Indian	CFTC/AIBD
3.	Mr John Nettleton General Programme Coordinator	<u>Management</u> : Finance and Administration <u>Training</u> : Broadcasting Management, Film/TV Production Technical/Programme Coordination	Malaysian	CFTC
4.	Ms Jai Chandiram Coordinator	Television Production Women's Development	Indian	CFTC
5.	Mr Hugh de Silva Coordinator	Radio Production, Training Methodology, News/Current Affairs	Sri Lankan	CFTC
6.	Mr Peter D'Huys Consultant	Television Production	Belgian	UNV/BADC/AIBD
7.	Mr Patrick Madelin Coordinator	Development of Training Materials, Television/ Engineering Resource Coordination	French	French Govt.
8.	Mr Genryo Matayoshi Coordinator	Engineering Programme and Resource Management	Japanese	JICA/NRE

LOCAL TRAINERS

---

No	Name/Position	Area of Work	Funded by
1.	Ms Eileen Wahab Trainer	Applications of Broadcasting, Women's and Children's Development Programmes Asia Calling	AIBD
2.	Mr D Geoffrey Trainer	Management, Non-Formal Education, Educational Radio	AIBD
3.	Mr Julian Shori Trainer	Television, ENG/EFP Production	AIBD
4.	Mr Tan Ewe Seng Trainer	Technical Services	AIBD
5.	Ms Jelita Helmy Associate Trainer	Television and Film Production Development of Training Materials	AIBD
6.	Mr K Kanagarajah Associate Trainer	Technical Operations	AIBD
7.	Mr Anandam Xavier Animation/Graphic Artist	Design and Graphics and Animation	AIBD

SUPPORT SERVICES

---

No	Name	Position	Area of Work	Funded by
----	------	----------	--------------	-----------

---

FINANCE

1.	Ms Margaret Dass	Executive Officer	Financial Management	AIBD
2.	Ms M Viyalambikai	Clerk (II)	Accounts	AIBD
3.	Ms R Parimala	Clerk (I)	Accounts	AIBD
4.	Ms R Leela Devi	Clerk (I)	Accounts	AIBD

ADMINISTRATION

1.	Mr Justin Dutton	Executive Officer	Administration	AIBD
2.	Ms R Vijayaledchumy	Supervisor	Course Administration	AIBD
3.	Ms Josephine Joseph	Supervisor	Word Processing Services	AIBD
4.	Ms K Thangerani	Stenographer	Secretary to Director	AIBD
5.	Mr V Visvanathan	Admin Assistant	Administration	AIBD
6.	Ms Jasbhir Miranda	Senior Clerk	Travel and Accommodation	AIBD
7.	Mr P Selvarajah	Training Asst	Course/Hostel Facilities	AIBD
8.	Ms May Louis	Clerk (II)	Word Processing	AIBD
9.	Mr K Shanugasigamany	Clerk (I)	Transport	AIBD
10.	Ms Sandra Ramchandran	Clerk (I)	Telex Operation	AIBD
11.	Ms K Sri Maler	Clerk (I)	Course Administration	AIBD
12.	Ms Hamidah bte Abduallah	Clerk (I)	Postage	AIBD
13.	Ms G Vasughi	Clerk (I)	Filing and Correspondence	AIBD

RESOURCE CENTRE

1.	Mr S V Subramaniam	Supervisor	Documentation, Editorial	AIBD
2.	Ms Thoo Yoke Min	Supervisor	Photocopying, Stores	AIBD
3.	Ms Anne Shanthi George	Clerk (II)	Documentation	AIBD
4.	Mr Joseph Marcel	Production Assistant	A/V Documentation, Computer Retrieval System	AIBD
5.	Ms Sharma Kumsari	Programme Asst	Editorial and Publications	AIBD

No	Name	Position	Area of Work	Funded by
----	------	----------	--------------	-----------

TECHNICAL OPERATIONS

1.	Mr Ramli bin Junin	Senior Technician		AIBD
2.	Mr Abdul Rahman	Technician		AIBD
3.	Mr Mohd Naur Borhan	Technician		AIBD
4.	Mr Zainal Abidin	Junior Technician		AIBD
5.	Mr Yunaris	Junior Technician		AIBD

TRANSPORT

1.	Mr Osman Abdul Rahman	Driver		AIBD
2.	Mr P Neelamagam	Driver		AIBD
3.	Mr N Sundaram	Driver		AIBD
4.	Mr Michael Ortega	Driver		AIBD
5.	Mr Haji Mohd Salleh	Driver		AIBD
6.	Mr T Ganapathy	Driver		AIBD
7.	Mr Abdul Mohamad	Driver		AIBD

SERVICE STAFF

1.	Ms Mineh bte Jantan	Tea Girl		AIBD
2.	Mr Gopal Vellavan	General Worker	Hostel Cleaning, Gardening	AIBD
3.	Ms Musalmi bte Kemat	General Worker	Cleaning, Tea	AIBD
4.	Ms Rosnani bte Abdul	General Worker	Cleaning, Tea	AIBD
5.	Ms T Negamnah	General Worker	Hostel Cleaning	AIBD



THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN  
THE JAPANESE CONSULTATION TEAM AND  
ASIA PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENT  
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME IN THE FIELD OF ELECTRONIC  
NEWS GATHERING OPERATION AND MAINTENANCE

添付資料 4

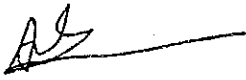
The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") dispatched by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) and headed by Mr. Akihiko Hashimoto visited Malaysia from August 14, 1983 to August 20, 1983 for the purpose of working out the Third-Country Training Programme in the field of Electronic News Gathering Operation and Maintenance (hereinafter referred to as "ENG") at Asia Pacific Institute for Broadcasting Development (hereinafter referred to as "AIBD") supported by the Government of Japan under its technical cooperation scheme.

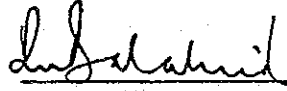
During its stay in Malaysia the Team had a series of discussions with AIBD in regard to the measures to be taken by the Government of Japan and AIBD for the successful implementation of the Third-Country Training Programme.

As a result of the discussions the Team and AIBD agreed to promote the matters referred to in the attached document.

Kuala Lumpur,

August 19, 1983

  
Akihiko Hashimoto  
Head of Japanese Consultation Team

  
R. Balakrishnan  
Director of Asia Pacific  
Institute for Broadcasting  
Development

THE ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and AIBD will co-operate with each other in implementing the Third-Country Training Programme (hereinafter referred to as "the Programme") in the field of ENG at AIBD.

The Programme will be conducted by AIBD with support of the Government of Japan under its technical co-operation scheme. The Programme will be conducted once a year from the Japanese fiscal year of 1983 (April 1, 1983 - March 31, 1984) subject to agreement between the authorities concerned of the Government of Japan and AIBD.

The Programme in the Japanese fiscal year of 1983 will be implemented in accordance with the following items:

1. TITLE

The training course conducted under the Programme will be titled as "Regional Training Course in Electronic News Gathering Operation and Maintenance" (hereinafter referred to as "the Course").

2. PURPOSE

The Course is designed to provide an opportunity of refreshing and updating relevant techniques and knowledge for engineers or technical officers engaged in the field of ENG in Asia Pacific Region.

3. DURATION

The Course will be conducted from February 7, 1984 to March 17, 1984.

4. CURRICULUM

A tentative curriculum is attached as in ANNEX I.

5. PARTICIPATING COUNTRIES

Following countries are invited to nominate applicants:

Bangladesh, Brunei, Burma, China, India, Indonesia, Iran, Republic of Korea, Pakistan, Philippines, Singapore, Sri Lanka and Thailand.

6. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the countries specified in 5 above will be thirteen (13) and that from Malaysia will be three (3).

7. QUALIFICATION OF APPLICANTS

Applicants to the Course are to

- 1) be engineers or technical officers in the field of TV programme production and maintenance;
- 2) have preferably longer than three (3) years of ENG occupational experience;
- 3) be or will be preferably the head of the division related to ENG maintenance and operation;
- 4) be preferably between thirty (30) and forty-five (45) years of age;
- 5) have a good command of spoken and written English;
- 6) be in good health to participate and complete the Course.

8. PROCEDURE OF APPLICATION

- 1) The Governments desiring to nominate applicant(s) for the

Course should complete five (5) copies of the designated application form for each and forward them to AIBD through their respective diplomatic channels not later than December 7, 1983.

- 2) AIBD will inform the applying governments whether or not the nominee(s) is accepted to the Course not later than January 7, 1984.

9. LECTURERS/INSTRUCTORS

- 9-1 AIBD will assign their own teaching staff as lecturers/instructors for the Course to the maximum extent possible.
- 9-2 Upon request of AIBD, the Government of Japan will dispatch three (3) short-term experts under its Expert-Assignment Programme for the purpose of giving advice and guidance to the AIBD staff and of giving lectures.
- 9-3 AIBD will submit to the Government of Japan the application form in request for dispatching the experts mentioned in 9-2 above.

10. UNDERTAKING OF THE GOVERNMENT OF JAPAN AND AIBD

In preparing for and implementing the Course the Government of Japan and AIBD will undertake following measures.

10-1 AIBD

- 1) Formulation of curriculum
- 2) To draft and print General Information brochures (G.I.)
- 3) To forward G.I. of the Course to the governments invited to the Course

- 4) To submit the application form for the experts to the Embassy of Japan in Malaysia
  - 5) To receive the application forms of the participants
  - 6) To notify the results of selection of participants to their respective governments and to the Embassy of Japan in Malaysia
  - 7) Arrangement for AIBD lecturers/instructors
  - 8) Arrangement of training facilities and accomodation for participants
  - 9) To provide meeting and sending services for participants at the airport
  - 10) Arrangement for international travels for participants and domestic study tour/s
  - 11) To take budgetary measures for the expenses necessary for implementing the Course except those financed by the Government of Japan
  - 12) To submit a course report to the Embassy of Japan in Malaysia
  - 13) To co-ordinate necessary matters related to the Course.
- 10-2 The Government of Japan
- To bear the following expenses
- 1) Expenses for international economy-class flight fare, accommodation and per-diem and medical insurance premium, incurred to participants except Malaysians.
  - 2) Expenses incurred to AIBD for operating the Course as meeting, teaching aid, material procurement, duplication, study tour/s and secretarial services.

11. FINANCIAL ARRANGEMENT

Financial arrangement for the training expenses to be borne by the Government of Japan will be made in accordance with the following procedures.

- 1) AIBD will submit to the Kuala Lumpur Office of JICA in Malaysia a bill of estimate for expenses to be borne by the Government of Japan to which remittance is to be made not later than sixty(60) days before the opening of the Course.
- 2) Kuala Lumpur Office of JICA in Malaysia will assess the amount stated on the bill of estimate and pay to AIBD the appropriate amount of expenses mentioned in 10-2 above within fifty(50) days after the receipt of the bill.
- 3) Upon confirmation of receiving the payment mentioned in 10-2 AIBD will submit to the Kuala Lumpur Office of JICA in Malaysia a receipt for the amount.
- 4) AIBD will submit to Kuala Lumpur Office of JICA in Malaysia a statement of expenditures within thirty(30) days after the closing of the Course.
- 5) In case any amount in the above-mentioned statement of expenditures is left unused, AIBD will reimburse the amount to JICA in accordance with the instructions given by the latter.
- 6) AIBD will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence to certify the expenditures stated in 4) above if requested by the latter.

12. SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

A recommended schedule of implementation of the Course is attached as in ANNEX II.

TENTATIVE CURRICULUM

Date	0900 - 1230	Person in-charge	1400 - 1630	Person in-charge
7 Feb (Tue)	Arrival	AIBD	Arrival	AIBD
8 Feb (Wed)	Opening Ceremony	AIBD	Orientation	AIBD
9 Feb (Thu)	Country Reports	AIBD	Continued	AIBD
10 Feb (Fri)	Outline of ENG System - camera	AIBD/JICA	Outline of ENG System -VTR and integrated system	JICA
11 Feb (Sat)	FREE		FREE	
12 Feb (Sun)	FREE		FREE	
13 Feb (Mon)	ENG CAMERA & VTR a. Kinds of Camera	AIBD/JICA	Standards of VTR	JICA
14 Feb (Tue)	b. Principles and function of Camera	JICA	Principles and functions of VTR and the integrated system	JICA
15 Feb (Wed)	c. Circuits (Camera)	AIBD	Circuits (VTR)	JICA
16 Feb (Thu)	d. Practice initial setting	JICA/AIBD	Continued	JICA/AIBD
17 Feb (Fri)	Programme shooting	JICA/AIBD	Continued	JICA/AIBD
18 Feb (Sat)	Observation trip	AIBD	Continued	AIBD
19 Feb (Sun)	FREE		FREE	
20 Feb (Mon)	Recording	JICA	Continued	JICA
21 Feb (Tue)	Test equipment	JICA	Continued	JICA
22 Feb (Wed)	Routine maintenance	JICA	Continued	JICA
23 Feb (Thu)	Continued	JICA	Continued	JICA
24 Feb (Fri)	Trouble shooting	JICA	Continued	JICA
25 Feb (Sat)	FREE		FREE	
26 Feb (Sun)	FREE		FREE	



Date	0900 - 1230	Person in-charge	1400 - 1630	Person in-charge
27 Feb (Mon)	Continued from Friday	JICA	Continued	JICA
28 Feb (Tue)	Time base corrector	JICA	Continued	JICA
29 Feb (Wed)	TBC trouble shooting	JICA	Continued	JICA
1 Mar (Thu)	CRT Monitor Theory/set-up trouble shooting	AIBD	Continued	AIBD
2 Mar (Fri)	Maintenance of Battery	JICA	Continued	JICA
3 Mar (Sat)	Observation trip	AIBD	Continued	AIBD
4 Mar (Sun)	FREE			
5 Mar (Mon)	New techniques in shooting	JICA	Continued	JICA
6 Mar (Tue)	Techniques on News transmission via space satellite	JICA	Continued	JICA
7 Mar (Wed)	Lighting practice	AIBD	Continued	AIBD
8 Mar (Thu)	ENG Editing-theory	JICA	Continued	JICA
9 Mar (Fri)	Editing Practice	JICA	Continued	JICA
10 Mar (Sat)	Observation trip	AIBD	Continued	AIBD
11 Mar (Sun)	FREE			
12 Mar (Mon)	Post production using sub-control facilities	JICA	Continued	JICA
13 Mar (Tue)	Sound dubbing system	JICA	Continued	JICA
14 Mar (Wed)	Continued	JICA	Continued	JICA
15 Mar (Thu)	Course evaluation	AIBD	Closing ceremony	AIBD

Date	0900 - 1230	Person in-charge	1400 - 1630	Person in-charge
16 Mar (Fri)	Preparation for Departure	AIBD	Preparation for Departure	AIBD
17 Mar (Sat)	Departure	AIBD	Departure	AIBD

ANNEX II

A SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE COURSE

<u>Month</u>	<u>AIBD side</u>	<u>Japanese side</u>
1983		
Middle of August	Signing of R/D	
Late in August	Submission of application form for the experts	
Middle of September	Distribution of G.I.	Recruitment of experts
Middle of November	Submission of bill of estimate of expenses	
Early in December	Acceptance of applications	
1984		
Early in January	Notification of acceptance	Remittance of expenses
Early in February	Conduct of the Course	Dispatch of experts
Middle of March	Submission of statement expenditures	
Middle of April	Submission of Course report	

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES AGREED UPON IN PRINCIPLE  
BETWEEN THE MISSION AND AIBO

No.	Item of Expenses	Breakdown	Amount																																																
I.	<u>EXPENSES FOR INVITATION</u>		(Yen)																																																
	1. <u>Airtickets:</u>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"><u>Country</u></th> <th style="width: 30%;"><u>Airticket Fee</u></th> <th style="width: 40%;"><u>Amount</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>a. Bangladesh</td><td>.854 x 1 person</td><td>205,000</td></tr> <tr><td>b. Brunei</td><td>277 x 1 person</td><td>66,500</td></tr> <tr><td>c. Burma</td><td>634 x 1 person</td><td>152,200</td></tr> <tr><td>d. China</td><td>1,320 x 1 person</td><td>316,800</td></tr> <tr><td>e. India</td><td>1,155 x 1 person</td><td>277,200</td></tr> <tr><td>f. Indonesia</td><td>473 x 1 person</td><td>113,600</td></tr> <tr><td>g. Iran</td><td>1,826 x 1 person</td><td>438,300</td></tr> <tr><td>h. Korea</td><td>1,430 x 1 person</td><td>343,200</td></tr> <tr><td>i. Pakistan</td><td>1,276 x 1 person</td><td>306,300</td></tr> <tr><td>j. Philippines</td><td>786 x 1 person</td><td>188,700</td></tr> <tr><td>k. Singapore</td><td>105 x 1 person</td><td>25,200</td></tr> <tr><td>l. Sri Lanka</td><td>907 x 1 person</td><td>217,700</td></tr> <tr><td>m. Thailand</td><td>451 x 1 person</td><td>108,300</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: right;">TOTAL</td><td>11,494</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td style="border-top: 1px solid black;">2,759,000</td></tr> </tbody> </table>	<u>Country</u>	<u>Airticket Fee</u>	<u>Amount</u>	a. Bangladesh	.854 x 1 person	205,000	b. Brunei	277 x 1 person	66,500	c. Burma	634 x 1 person	152,200	d. China	1,320 x 1 person	316,800	e. India	1,155 x 1 person	277,200	f. Indonesia	473 x 1 person	113,600	g. Iran	1,826 x 1 person	438,300	h. Korea	1,430 x 1 person	343,200	i. Pakistan	1,276 x 1 person	306,300	j. Philippines	786 x 1 person	188,700	k. Singapore	105 x 1 person	25,200	l. Sri Lanka	907 x 1 person	217,700	m. Thailand	451 x 1 person	108,300	TOTAL		11,494			2,759,000	2,759,000
	<u>Country</u>	<u>Airticket Fee</u>	<u>Amount</u>																																																
	a. Bangladesh	.854 x 1 person	205,000																																																
	b. Brunei	277 x 1 person	66,500																																																
	c. Burma	634 x 1 person	152,200																																																
	d. China	1,320 x 1 person	316,800																																																
	e. India	1,155 x 1 person	277,200																																																
	f. Indonesia	473 x 1 person	113,600																																																
	g. Iran	1,826 x 1 person	438,300																																																
h. Korea	1,430 x 1 person	343,200																																																	
i. Pakistan	1,276 x 1 person	306,300																																																	
j. Philippines	786 x 1 person	188,700																																																	
k. Singapore	105 x 1 person	25,200																																																	
l. Sri Lanka	907 x 1 person	217,700																																																	
m. Thailand	451 x 1 person	108,300																																																	
TOTAL		11,494																																																	
		2,759,000																																																	
2. <u>Allowances:</u>		2,478,400																																																	
	Living Allowance	M\$30/- per day x 40 days x 13 persons x 104 yen	1,622,400																																																
	Accommodation	M\$15/- per day x 39 days x 13 persons x 104 yen	791,000																																																
	Medical Insurance	5,000 yen x 13 persons	65,000																																																
	TOTAL FOR EXPENSES FOR INVITATION (I):		5,237,400																																																
II.	<u>TRAINING EXPENSES</u>																																																		
	1. <u>Expenses for Observation Trip</u>		265,200																																																
		Domestic Tour (Day Allowance)	a. M\$50 x 5 persons x 3 times x 104 yen	78,000																																															
		(Micro Bus)	b. M\$600 x 3 times x 104 yen	187,200																																															
	2. <u>Personnel Expenses</u>		66,600																																																
	Overtime expenses for secretaries	M\$32/- x 20 days x 104 yen	66,600																																																

No.	Item of Expenses	Breakdown	Amount
			(Yen)
	<u>3. Transportation Expenses</u>		
	Micro bus for airport reception, sending and for trip to town on holidays for food	M\$112 x 104 yen	11,700
	<u>4. Meeting Expenses</u>		473,300
	Opening & Closing Ceremonies	M\$410 x 104 yen	42,700
	Discussion Meeting	M\$35 x 30 persons x 2 times x 104 yen	218,400
	Coffee Break	M\$3 x 20 persons x 34 days x 104 yen	212,200
	<u>5. Teaching Materials</u>		2,533,200
	Copying and Binding	M\$0.15 x 200 pages x 20 persons x 104 yen	62,400
	Consumerables	M\$0.10 x 20 persons x 200 pages x 104 yen	41,600
	Stationeries	Stationeries M\$5 x 20 persons x 104 yen	10,400
		Name plates M\$5 x 20 persons x 104 yen	10,400
	Teaching Aid Materials	Vector Display M\$3,500 x 1 x 104 yen	364,000
		Battery Checker M\$100 x 1 x 104 yen	104,000
		Colour Monitor M\$1,500 x 4 sets x 104 yen	624,000
		Video Tapes M\$70 x 30 x 104 yen	218,400
		Tools M\$1,000 x 104 yen	104,000
		Components and Spares M\$1,000 x 104 yen	104,000

No.	Item of Expenses	Breakdown	Amount
		W/F Monitor M\$3,500 x 104 yen	364,000
		Digital Multimeter M\$500 x 2 x 104 yen	104,000
	Others:	Insurance on Rented Equipment M\$150,000 x 2% x 104 yen	312,000
		Final Report Writing M\$500 x 104 yen	52,000
		Certificates M\$10 x 20 persons x 104 yen	20,800
		G/I M\$15 x 15 sets x 104 yen	23,400
		Book carrying case M\$6.80 x 20 persons x 104 yen	13,800
		TOTAL FOR TRAINING EXPENSES (II):	3,350,000
		GRAND TOTAL FOR (I) AND (II):	8,587,400 =====

GENERAL INFORMATION

Procedure for Preparation of Applications

The application of each candidate should consist of the following:

- (i) A formal letter of nomination from the government; and
- (ii) One copy of the application form, filled in by the candidate and completed by the government or the sponsoring agency. The application should include a brief description of the candidate's present duties and functions.

N.B. Fellowships are awarded following a study of the qualifications of the candidates and the number of fellowships available.

Obligations of the Sponsors

The sponsoring organisations/governments have the following obligations towards the holder of a fellowship:

- (i) Ensuring the continuation of salary or other arrangements as may be appropriate to maintain the fellow's dependents or other obligations while he/she is abroad. AIBD cannot assume any financial responsibility in this regard;
- (ii) Payment of passport, visa, travel fees and en-route expenses; and
- (iii) Assuring that the fellow will be employed upon his/her return in a position related to the duties for which the fellowship was awarded.

### Facilities provided under the Fellowship

- (i) AIBD will provide participants with an airticket from the capital city or international airport, nearest to their normal place of work to the venue of the activity and back. Participants/sponsoring organisations are expected to bear additional cost of passages for other local sectors, or stopovers or changes en route not otherwise authorised by AIBD. However, stopovers necessitated by the approved itinerary will be arranged/paid for by AIBD at pre-determined rates. AIBD will not reimburse other expenses incurred in travelling to and fro, excess baggage, airport taxes, travel taxes, etc. Fellowship does not provide for clothing allowance or travel of the fellow's family.
- (ii) Arrangements will be made for suitable accommodation. In addition the participants will be paid a reasonable daily allowance to cover meals and other incidental expenses.

### Responsibility of the Participants

AIBD does not assume any responsibility for compensation in case of sickness, accident, invalidity or death during the course. It does not provide any insurance coverage for the participants during travel or for their stay while attending the course. The participants and/or their employers are, therefore, advised to make their own arrangements against the above risks.

### Additional Information

- (i) Books and course materials are provided by the AIBD.
- (ii) Transport to and from the training centre and for any other course assignments will be provided by the host organisation.
- (iii) Participants will receive a certificate of attendance on completion of the course. No examination will be held nor a proficiency certificate issued.
- (iv) The candidates should apply for a visa, if required, for the duration of the course as soon as they receive confirmation of their acceptance. This should extend beyond the dates of the course by one week to cover any travel difficulty. Participants are also requested to bring two passport size photographs with them.



## ASIA-PACIFIC INSTITUTE FOR BROADCASTING DEVELOPMENT

Regional Course on  
OPERATION AND MAINTENANCE OF ENG/EFP EQUIPMENT

10 January to 18 February 1988  
(including arrival and departure dates)  
Kuala Lumpur, Malaysia

### COURSE INFORMATION

#### Objectives

To equip participants with technical and programme production knowledge that will enable them to operate and maintain ENG/EFP production equipment and systems and to produce ENG/EFP programmes in relation to the following:

1. ENG/EFP camera principles and maintenance practice
2. VTR principles and maintenance practice
3. ENG/EFP editing technology and practice
4. Sound dubbing and post-production technology and practice
5. ENG/EFP programme planning
6. ENG/EFP scenario construction and camera work.

#### Participation

Nominations for this activity are expected from broadcasting organizations and pertinent government departments. Two fellowships are available to each country. Additional candidates may be accepted if they are fully sponsored and paid for, (including a training fee of US\$250 for the first week and US\$150 for each subsequent week, and materials cost at US\$150 for the first week and US\$100 per week for subsequent weeks, per person) provided places are available.

#### Qualifications

1. Producers and senior technicians engaged in the field of TV programme production and equipment maintenance respectively;
2. Have more than two years of occupational experience in ENG or, preferably senior crew members in EFP programme production and maintenance;
3. Preferably between 30 and 45 years of age;
4. Have a good command of spoken and written English; and
5. Be in good health to participate and complete the Course.

Participants should also prepare and submit a country paper which would be used in the selection of suitable candidates. This paper (of not less than 300 words) must be submitted along with the the nomination forms, and should incorporate information relating to:

1. Types of ENG/EFP equipment (and facilities incorporated) in use in their organisations;
2. Types of ENG/EFP coverage and utilisation;
3. Organisation and structure of ENG/EFP programme production and maintenance divisions; and
4. Plans for the future (in outline) of envisaged expansion of service, acquisition of new equipment, etc.

Selection will be based on country papers prepared by nominees and the information provided in their application forms. It is therefore essential that the country papers as well as completed application forms reach this office latest by 4 December 1987.

The Course will be conducted in English, therefore a good understanding and a resonable fluency in this language is essential.

#### Venue

This activity will be held at the Malaysian national broadcasting institute, Institut Penyiaran Tun Abdul Razak (IPTAR).

#### Deadline for Applications

Applications should be channelled through the office of the Resident Representative of the United Nations Development Programme and should reach this office latest by 4 December 1987.

Director  
Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development  
P.O. Box 1137, Pantai  
KUALA LUMPUR, Malaysia

Cable Address : UNESBROAD KUALA LUMPUR MALAYSIA  
Telex : MA 30083 APBRO  
Telephone : 2744555/2745517/2743719

Further details regarding the Course will be sent to successful candidates directly after confirmation of their nominations with copies to your office.

添付資料 6

NAME: K M HARUN-AL-RASHID

COUNTRY: BANGLADESH

OPERATION AND MAINTENANCE OF ENG/EPP EQUIPMENT COURSE  
11 JAN TO 16 FEB 1988  
AIBD  
KUALA LUMPUR

QUESTIONNAIRE  
FOR  
FINAL COURSE EVALUATION

- I . OBJECTIVES
- II . CURRICULUM DESIGN
- III . COURSE CONDUCT
- IV . ADMINISTRATION AND MANAGEMENT
- V . TRAINING OUTCOMES

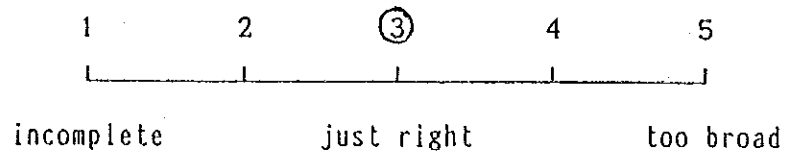
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
(JICA)



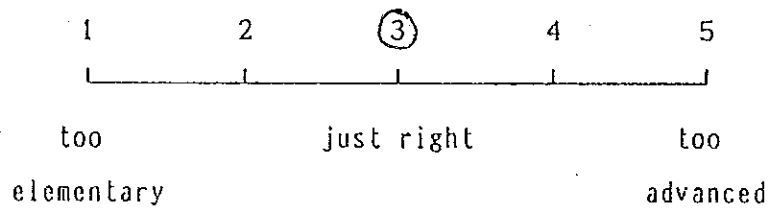
## II. CURRICULUM DESIGN

(1) Coverage, Level, Time Allocation, Intensity and Duration;

a) Coverage of the subjects

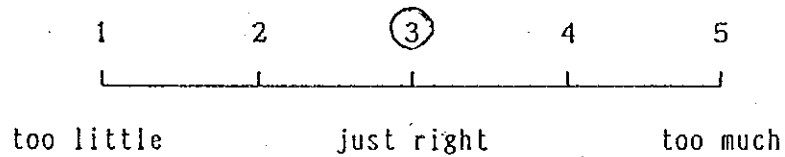


b) Level

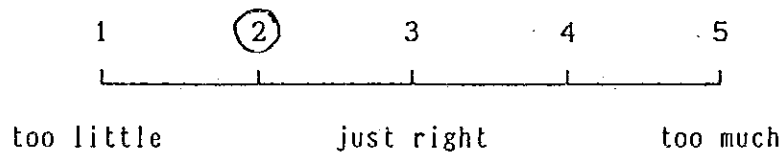


c) Time allocation to:

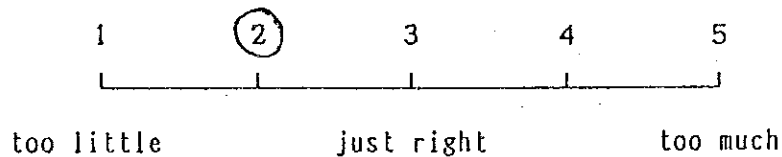
Lectures



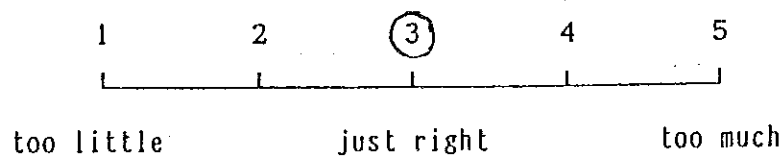
Discussions



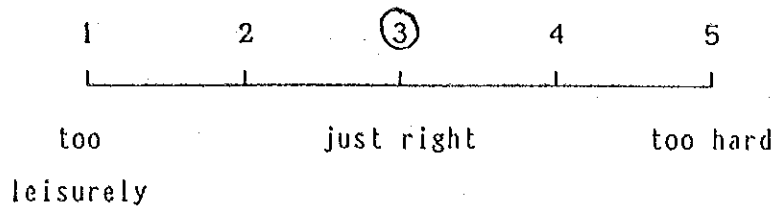
Exercises



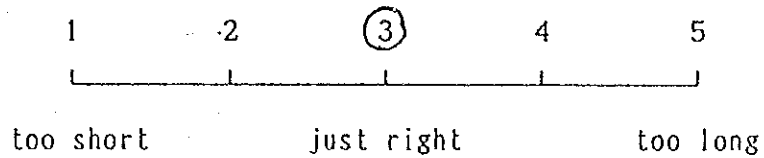
Observations



d) Intensity



e) Duration



\* Please comment, if you have any.

---

---

---

---

---

---

---

(2) Programming of the Topics

Do you think that the topics were programmed systematically?  
If you do not, please give us your suggestion to improve the training much better.

Systematically

---

---

---

---

---

---

---

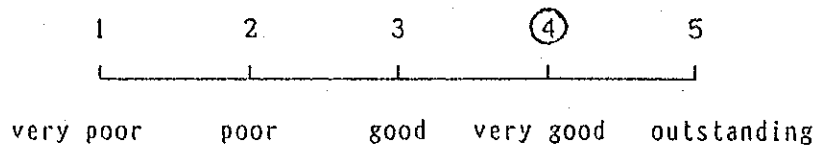




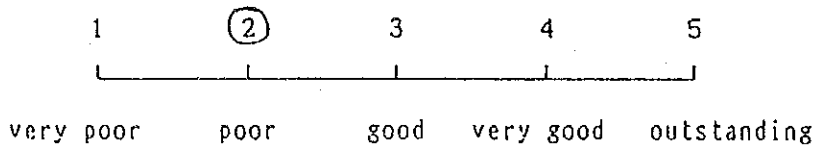




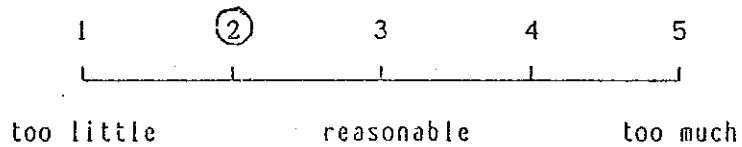
c) Arrangments for observation trips



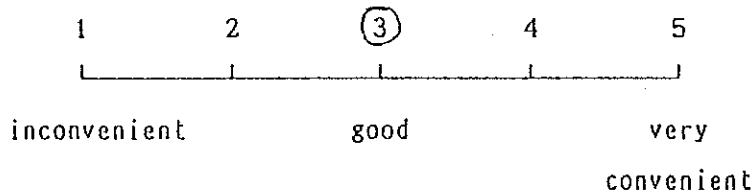
d) Housing and food accommodations



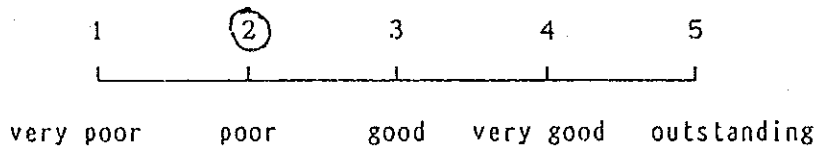
e) Allowance



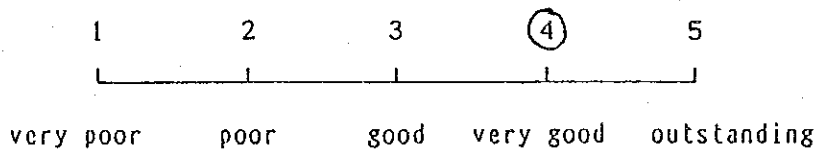
f) Transportation



g) Social program



h) Communication among the Participants



Please comment, if you have any.

---

---

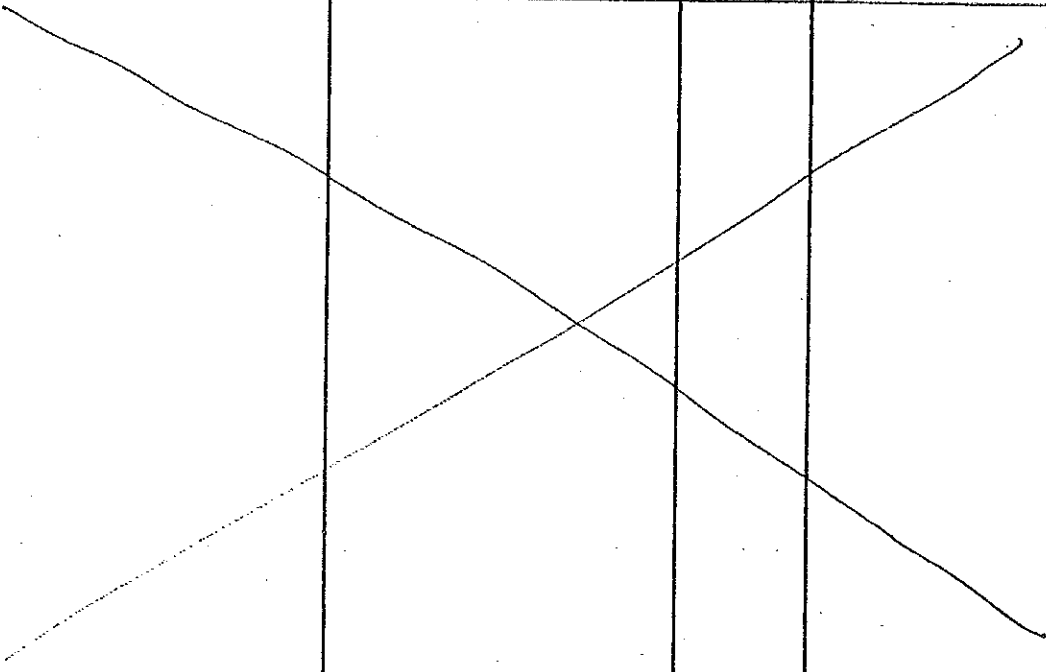
---

---





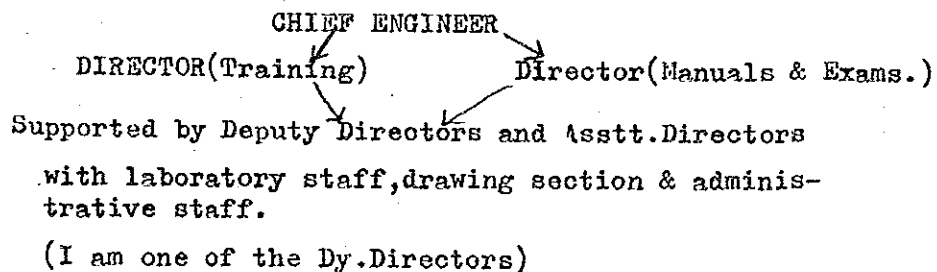
(2) Education/Training after attending the Third Country Training :- NIL

Name of the education/ training institution	Location of the institution	Years from-to	Certificate/Diploma/Degree obtained -and- Major discipline
			

### III. Employment/Work Experience

(1) Your present organization, position, and official address :-Dy. Director,  
Staff Training Inst.(Tech.), AIR & TV  
Rosary School Marg, DELHI-110 009

(2) Chart of the above-mentioned organization with an indication of your section in it.



(3) Your duties in the present service/- Training of Technicians, Operators & Engineers of AIR & TV (IN SERVICE)

(4) Nature of the present job: Preparation of Technical Manuals & Training Handouts, Lecture & Lab. work  
( Indicate by an (x) mark in the corresponding box )

Activities	Full (90%)	Major (75%)	Partly (50%)	Slightly (25%)
Administration				(X)
Direction				(X)
Design of Equipment				NIL
Handling of Equipment			(X)	
Maintenance of Equipment				(X)
Research				NIL
Others, specify (Training)		(X)		

(5) Employment record since the year of your participation Continuing to Work as Dy. Dir

Duration of Service	Position (or assignment)	Organization
Still Continuing	Dy. Director	Staff Training Inst. (T) AIR & TV, DELHI

#### IV. EVALUATION OF THE THIRD COUNTRY TRAINING COURSE

- (1) What was/were your previous expectation(s) of the Training Course?  
To obtain better competence in imparting the Knowledge & Skill in the operation & maintenance of ENG/EFP Equipment to the Departmental Engineers & technicians.

- (2) To what extent did the training programme correspond to your previous expectation(s)?

Completely  Highly  Somewhat  Hardly  Not at all

Please explain your answer briefly:

The theoretical & practical aspects of ENG/EFP equipments covered were very useful to me in better understanding of the system for meeting the training requirements of our Institute

- (3) To what extent could you apply the knowledge/skill, etc. acquired during the training course in your present job?

All  Most  Some  A Little  None

Please explain your answer briefly:

The training course gave me added confidence in meeting the training requirements of my Institute.

- (4) What kind of benefit have you obtained from the Training Course?

<input type="checkbox"/> Work Conditions	<input type="checkbox"/> In obtaining another (better) job
<input checked="" type="checkbox"/> Responsibility	<input checked="" type="checkbox"/> Contents of Work
<input type="checkbox"/> Prospects for the future	<input type="checkbox"/> Professional recognition
<input type="checkbox"/> Salary-wise	<input type="checkbox"/> International contacts

Please explain your answer briefly:

Higher responsibility was given to me in the field of Training others.

- (5) Is there any suggestion how to improve the effect/efficiency of the Training Course?

The training shedule combined the operational & Maintenance aspects together. It would have been more useful if the maintenance aspects were covered seperately with emphasis on mechanical trouble shooting including replacement of major components under expert supervision from the manufacturers.

Thank you very much for your cooperation.







JICA